2017年1月1日

青森大学ニュース No.31

青森大学における研究活動の推進

学長　崎谷康文

はじめに

「青森大学ルネッサンス」は、大学の運営、教育研究、社会貢献など大学の活動全般にわたる改革である。改革は、徐々に成果を示してきている。「地域とともに生きる大学」と「学生中心の大学」という、青森大学改革の目標が次第に明確な形で達成されてきている。地方公共団体や経済団体、地元の高等学校等との連携協力が進み、教職員や学生が地域社会の人々と交流する活動が増えてきている。青森大学が地域社会を担う人材を育てていること、地域社会の活性化の拠点となっていることが、地域の人々に見えるようになってきている。青森大学が「地域とともに生きる大学」としての活動を充実させ、そして、学生の主体的な能力を引き出すためのアクティブ・ラーニングなどの先駆的な挑戦をしている「学生中心の大学」であることが発信され、認識されてきている。

青森大学の教育研究、運営等にわたる改革は着実に進展し、広く成果を上げてきている。青森大学の改革は、大学の使命の根幹である教育研究と社会貢献、さらに大学運営にわたる全般的な改革であるから、その中にあって研究活動が果たす意義を忘れてはならない。青森大学の研究活動は、科学研究費の採択実績が過去５年間続けて向上し続けるなど、改善が顕著であるものの、研究活動をさらにどのように発展させ、研究活動の成果をどのように教育活動に生かし、また、研究活動を通じての地域貢献をどのように果たしていくべきかについて明確な方向付けが必要である。

青森大学が目指す研究の方向性を見極めつつ、研究活動の成果を教育活動等に生かし、青森大学の魅力を高め、ブランド力の向上を図るための方策について考えたい。

大学の使命と学術研究

（１）大学の使命

大学は、学校教育法第１条に定める学校であり、高等教育機関である。初等中等教育の学校の修了者を受け入れ、さらに高い段階の教育を行う。高等教育機関には、大学の他に、高等専門学校と専門学校（専門課程を置く専修学校）がある。しかし、大学は、学術研究の機関であると位置づけられ、これが、高等専門学校や専門学校と決定的に異なっている。

教育基本法第７条第１項は、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探求して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と定め、第２項は、「大学については、自主性、自律性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない。」と定める。

学校教育法第８３条第１項は、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」と定め、第２項

は、「大学は、その目的を実現させるための教育研究を行い、　その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と定める。

このような法律の規定は、まず何よりも、大学が「学術の中心」であることを明確にしている。学術の中心（Centre of Learning）とは、大学が学問の自由（Academic Freedom）を享受する、研究と教育の機関であることを示している。

法律の規定は、大学の本来の目的は、「学術の中心」として教育研究を行うことであり、その教育と研究が密接不可分であることを示している。大学の研究は、深く真理を探求して新たな知見を創造することであると示し、教育については、高い教養と専門的能力を培うこと、広く知識を授け、深い学芸の教授研究により知的、道徳的及び応用的能力を展開させることが使命であると規定する。知的、道徳的及び応用的能力の展開とは、大学が、単に、専門的な知識や技能、職業に直結する能力を育成する機関として位置づけられているのではなく、全人的な人間教育の機関であることを示している。

Ｊ．Ｓ．ミルが「大学は職業教育の場ではありません。…大学の目的は、熟練した法律家、医師、または技術者を養成することではなく、有能で教養ある人間を育成することにあります。」（「大学教育について」）と述べたことは今に生きている。

教育研究に加え、社会貢献が大学の任務であることが明確に規定されている。社会貢献は、教育研究の成果を広く社会に提供することである。社会貢献は、教育研究に付随する大学の役割と考えることができる。このように、大学は、教育研究を行い、その成果を広く社会に提供して、社会の発展に寄与することを使命とする。

（２）学術とは何か

学術は、真理の探究を目指し、自由な発想に基づき行う知的創造活動であり、自然、人間、社会におけるあらゆる現象の真理や基本原理の発見を目指して、人間が自由な発想、知的好奇心・探求心を基に行うものである。学術研究により、新しい原理や法則の発見、分析や総合の方法論の開発、新しい技術や知識を体系化、先端的な学問領域の開拓などが進展し、それらの成果が人類の知的資産を構築・蓄積してきている。

学術研究の成果は、人類共通の知的資産を形成するとともに、産業、経済、教育、社会などの諸活動及び制度の基盤となっており、学術研究の成果の蓄積は、新しい「文化」の形成の礎となっている。

学問の自由が想定するのは、大学における学術研究即ち人文学・社会科学・自然科学の研究である。大学における研究は、真理を探究し、何事にもとらわれず、知的好奇心を基盤に原理や法則を求めるために行う基礎研究が中心であるが、加えて、法則や基本原理が社会において実際に使われることを目指して行われる応用研究、さらには、企業との連携等により、新たな手法や装置などを作っていくための開発研究まで広く大学で行われるようになっている。近年の動向として、地域社会の実際的な課題の解決を目指す研究や産学官の連携による研究協力が推進されているが、このような研究に対し、大学の研究者は、知的好奇心と自由な発想を基に取り組んでいくことが期待されている。孔子は、「之を知る者は、之を好む者に如かず、之を好む者は、之を楽しむ者に如かず」と言っている。学問は、知識を増やすよりも、学問を好むこと、さらにそれよりも学問を楽しむことが大切であり、これが学問研究の本質である。

（３）学術と科学技術

学術は、人文学・社会科学・自然科学にわたる、科学あるいは学問などと呼ばれる活動であるが、この学術に対して、科学技術という用語がある。科学技術は、科学と技術の総称（Science＆Technology）であり、平成１３年に文部省に統合され、文部科学省に含まれる以前の科学技術庁が取り扱ってきた科学技術は、「人文・社会科学のみに関する研究及び大学における研究を除き、国民経済の発展への寄与につながる科学技術」即ち実用的な目的を有する科学技術と定義されていた。

現在の文部科学省においては、学術と科学技術の連携・連絡を図りながらも、学術と科学技術の違いに配慮しており、科学技術・学術審議会は、科学技術の総合的振興に関する重要事項及び学術の振興に関する重要事項を審議することとなっている。

平成７年に議員立法により科学技術基本法が制定された。科学技術基本法は、人文・社会科学のみに係るものを除く科学技術の振興に関する施策の基本となる事項を定め、科学技術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進することにより、我が国における科学技術の水準の向上を図り、もって我が国の経済社会の発展と国民の福祉の向上に寄与するとともに世界の科学技術の進歩と人類社会の持続的な発展に貢献することを目的とする。大学における研究は、科学技術庁が所掌する「科学技術」に含まれていなかったが、科学技術基本法の「科学技術」に含まれている。政府は、科学技術基本法に従い、科学技術基本計画を５年ごとに策定している。

（４）学術研究のこれからの針路

平成２７年１月２７日の科学技術・学術審議会の学術分科会の「学術研究の総合的な振興方策について（最終報告）」は、学術研究のこれからの針路を示している。この報告は、我が国の学術研究は、公財政投資額が限られる中、新たな知を創出・蓄積し、継承・発展させることにより、人類社会の持続的発展の基盤を形成するとともに、新たな知への挑戦を通じて広く社会で活躍する人材を育成し、現在及び将来の人類の福祉に寄与し、国際社会において存在感を伸ばしてきたとしつつ、

①少子高齢化や人口減少等の構造的な課題、エネルギー問題等のグローバルな課題など、先行モデルがない山積する難題の解決に向けて、我が国が世界をリードし、フロントランナーとして解決の道を自ら切り拓いていくべきこと、

②現在の研究の最前線では、自然現象や社会現象に関する認識の範囲の急速な拡大、創出される情報量の増加や、計算的手法の情報処理の進展、通信技術の革新による情報の伝播・共有の高速化などを背景に、学術研究自体が急速に拡大・変化し、生命科学、材料科学など広範な領域で新たな学際的・分野融合的領域が展開し、知のフロンティアが急速に拡大している状況にあって、新たな原理の探求や領域の創出に向けた国際競争に立ち向かうべきこと、

などの課題が生じているが、国立大学法人運営費交付金がこの１０ 年間で1,292億円減少するなど基盤的経費の逓減があり、研究環境の悪化は、学術研究の推進はもとより人材育成にも大きな影響を及ぼしているとする。

そこで、この最終報告は、学術研究の今日的役割として、

①人類社会の発展の原動力である知的探究活動それ自体による知的・文化的価値の創出・蓄積・継承（次代の研究者養成を含む）・発展、

②現代社会における実際的な経済的・社会的・公共的価値の創出

―新しい知識の発見や深化などを通じ、社会の抱える問題を正しく把握しその解決に向けた長期的・構造的な指針を提示すること。具体的には、産業への応用・技術革新、生活の安全性・利便性向上、病気

の治癒・健康増進、突発的な危機への対応など社会的課題の解決、新概念（認識枠組み）の創造等―、

③豊かな教養と高度な専門的知識を備えた人材の育成・輩出の基盤、

④上記①～③を通じた知の形成や価値の創出等による国際社会貢献等、また、地域社会・経済を活性化する多様な人材の育成及び地域企業との連携による革新的技術の創造等により地域再生に貢献、

という４項目を掲げ、現代の学術研究には、いわば「挑戦性、総合性、融合性、国際性」が特に強く要請されており、とりわけ、学術研究が将来にわたって持続的に社会における役割を果たすためには、次代を担う若手研究者を育成することが重要であることを確認した上で、知の創出・継承により国民全体の教養を高めること、社会のニーズ等に適切に対応した研究の推進などにより社会との交流を強化することが必要であるとする。

青森大学における研究の推進

（１）青森大学の研究活動の現状

青森大学の全ての教員は、研究活動の担い手である。青森大学の教員は、学生に対する教育に従事するとともに、研究者として研究活動を行うことが重要な役割である。常に最先端の学問に接していることは、大学の教員として必須のことである。大学の事務職員は、大学の使命と教員の役割を理解して、教員の研究活動が円滑にかつ適切にそして積極的に行われるように援助し支援することが必要である。研究に必要な施設、設備、機器、材料等の確保や維持を図り、研究費の適切な使用の方法等について教員に対して必要に応じ助言し支援するなどの役割を果たさなければならない。

青森大学における研究活動の原資は、①教員一人当たりの額で大学の予算に措置される研究費、②学長裁量経費に基づく公募型のプロジェクトに対する研究費、③科学研究費助成金等の外部資金による研究費、さらには、④今年度応募したが、獲得できなかった、私学助成による、大学の研究ブランディングのために構築する研究プロジェクトに対する研究費などがある。

どれほど外部からの競争的資金をできるかどうかが、教員の研究能力や大学の研究の実力を見極めるための重要な物差しとなっている。大学の教員にとって、科学研究費補助金は、最も基本的な外部資金である。科学研究費補助金は、文部科学省と日本学術振興会（JSPS)が取り扱う、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」である。科学研究費は、平成２９年度予算案では、前年度１１億円増の２，２８４億円となっている。科学研究費補助金は、平成２３年度から基金化が導入され、予算額には翌年度以降に使用される研究費が含まれることとなり、予算額が当該年度の助成額を表さなくなった。このような事情もあり、科学研究費補助金予算額は、平成２３年度の２，６３３億円から減少し続けていたが、２９年度予算案になってようやく増加の方向に転じた。

公的な競争的資金としては、他に、プロジェクト型あるいは目的志向型の研究を中心とする科学技術振興機構（JST)の研究推進事業及び日本医療研究開発機構（AMED)の研究開発支援事業がある。これらについても、今後、青森大学の教員の参加や応募が前向きに行われることを期待したい。

その他、青森学術文化振興財団、大川情報通信基金など多くの研究助成の財団等があり、これらへの応募は、科学研究費への応募に向けての準備段階の研究や科学研究費等で行っている研究を補強し拡充強化するために有効であり、積極的に利用したい。

青森大学の科学研究費補助金の採択が増えていることは、教員の努力の成果として評価できる。平成２８年度１７件、１７，１３８千円になった。日本学術振興会からの２件の委託費を加えると、１９件、

１８，４４２千円となる。これは、平成２２年度科学研究費１件、２６０千円と比べると、著しい進展と言える。科学研究費への申請は、毎年２０件程度まで増加している。平成２６年度から開始した学長裁量経費による教育研究プロジェクトの採択が増え、平成２８年度は研究推進部門８件、教育改革部門３件となっている。さらに、青森大学の学術研究会が編集する研究紀要や附属総合研究所の紀要（Web紀要）への投稿が途切れず続いている。

（２）青森大学の研究ブランディングの推進

文部科学省の平成２８年度私立大学助成の予算において、私立大学研究ブランディングの事業が措置されることとなった。青森大学は、是非、この事業を行いたいと考え、平成２８年３月、学長裁定により「青森大学の研究ブランディング事業の推進に関する会議」を設置した。この会議は、６月に「青森大学の研究推進と研究ブランディング事業の推進に関する会議」へと、機能を拡充し組織名を改めた。

学長裁定が示す、この会議の重要な任務は、次のとおりである。

① 青森大学の研究推進の全学的な司令塔

② 青森大学の全学的な優先課題の総合的研究を「研究ブランディング事業」として計画的に推進

研究ブランディング事業のテーマは、文系・理系が揃った青森大学の総力が発揮できるよう、「健康長寿社会を構築し、地域社会の再生・活性化を進めるための大学と地域社会との連携協力の総合的な推進の在り方に関する研究（仮題）」として、平成２８年度から実施

③ 推進会議の下に置く「研究支援室」により研究支援を推進

この会議において、私学助成の研究ブランディング事業について準備を進め、平成２８年７月、青森大学は、研究ブランディング事業へ応募した。

青森大学の研究ブランディング事業のテーマは、「青森に生きる若者が作る『活力と希望があふれる健康社会あおもり』の構築」であり、人口流出や短命に悩む青森県において、若者の「意識変革」と「行動変容」を通し、希望と幸福を感じることができる健康社会モデルの構築を研究するという内容である。

具体的な研究としては、社会学部と薬学部において、「青森型行動」と「青森型疾病」についての動物実験を行い、さらに、経営学部とソフトウェア情報学部が加わり、県民意識と自己評価等に関する調査、「青森型行動」の検証、「青森型行動」に関する理論モデルと実証モデルの構築、行動変容アプリの開発などを行うこと、また、学生の就職先となる地元企業の役割の重要性にかんがみ、企業へのアンケート調査、地元企業の活動の調査など、さらに、活力ある地元企業のモデル化などを行う計画であった。

青森大学の研究ブランディング事業への申請は、厳しい競争の中、採択されなかった。しかしながら、青森大学は、既に、青森大学の特性を生かし、全学的な協力の下、研究ブランディング事業に位置付けられる研究を進めてきている。私学助成は得られなかったが、「青森大学の研究推進と研究ブランディング事業の推進に関する会議」が司令塔となって、全学的な研究体制を整え、研究ブランディング事業を進めていくこととしている。

青森大学における研究推進と教育活動

（１）研究と教育の相互作用

大学は、本来、学問の発展のために教員と学生が切磋琢磨していく場であり、研究と教育は一体不可分という性格を持つ。

今日の大学においては、博士課程や特別研究員などの段階では、教員の研究の最先端が学生や研究員

に直接伝わることが想定されているが、大衆化した大学の学士課程教育においては、学生にどのような能力を育成し、どのような知識や技能を習得させようとしているかを予め明示して、体系的な教育課程を整え、組織的な教育を施すことが必要となっている。学士課程の教育課程を編成するに当たっては、各教員が教えることができるものという考え方から、学生が学ぶべきものは何か、学生の能力をどう伸ばすかという視点への転換が求められている。

以上のような考え方に立ち、全ての大学が、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針を明らかにすることが要請されている。特に、重要視されているのは、学生の主体的能力を引き出すためのアクティブ・ラーニングの充実と学長を中心とする全学的な教学マネジメントの確立である。

大学は大衆化し、個々の大学は機能別の分化を進めているが、大学が大学である所以は、何よりも、大学は学問を基盤として人間形成を図ることを使命とすることである。

研究と教育の好循環を生み出すため、大学の教員全てが最先端の学問に関わっているからこそ、学生に対する教育成果を高めることができると考えなければならない。

（２） 教育の充実強化のための研究の推進

大学の教員が学会に属し、学問の最先端に立って自らも研究活動を進めていること、即ち、研究者として学び続けているという意欲と姿勢を学生に感じ取らせることは、教育の効果を高めるために必要なことであり、教員自らが能力の向上、キャリア形成の努力を抜かりなく継続していくことが極めて重要である。

学術の世界は、常に変動し、進化している。このような状況を踏まえ、私は、青森大学の教員に、次のような観点における研究に積極的に取組むことを期待したい。

① 比較的細分化された学術研究分野の最先端を切り拓く研究
② 自らの専門分野と関連する分野との連携による学際的、多角的な研究
③ 経済社会における人間の行動や意識、コミュニティの再生、企業等組織の運営管理、産業の活性化など、現実の社会の問題の分析や解決策の研究
④ 大学の教職員の能力をより効果的に発揮できるようにするための手法等の研究
⑤ 学生の主体的な能力を引き出し、伸ばすための教育方法に関する研究

これまで、ともすれば、学術研究は、一人ひとりの研究者が専門分化の著しい中、一定の分野(discipline)における独自性のある研究を進めることが中心課題となっていたきらいがあるが、近年、人文・社会科学と理系諸科学の緊密な連携が不可欠になり、例えば、日本学術会議の第3常置委員会（岩崎俊一委員長）が、平成１１年４月、創造モデル研究（一次：仮説の提唱とその実証)、展開モデル研究（二次：一次モデルの標準化と普及)、統合モデル研究（三次：二次モデルの実社会への融合）という新しい研究の分類を提唱するなど、科学研究と現在及び未来の社会との対話が重要な視点となってきている。

また、昭和４６年創刊のタイムズ・ハイヤー・エデユケーション・サプリメントの記事が注目されるようになっているが、高等教育自体が学術研究の対象となり、高等教育政策、高等教育の内容や方法等についての研究は、最近になって、次第に活性化してきている。

平成２７年１月の科学技術・学術審議会の学術分科会の最終報告が、現代社会における実際的な経済的・社会的・公共的価値の創出、地域社会・経済の活性化を促す多様な人材の育成及び地域企業との連携による革新的技術の創造等などを示して、これからの学術研究の方向付けを明確にしていることなど

も大きな流れとして押さえておきたい。

青森大学における研究は、引き続き多様な観点から進められるが、特に、今後、地域社会との関連性を重視して、地域社会への貢献につながる研究、高等教育自体の内容と方法を高めるための研究を推進して、教育への還元ができるようにしたい。

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための取組みをファカルティ・デベロップメント（FD）と称し、青森大学は、FD による様々な活動を行っている。毎年２回の教職員研修会の開催、各種研修会への派遣、学内における教員相互の授業参観（前期、後期に各１週間）、学生による授業アンケートとそれに基づく授業方法の改善などである。

教育についての研究と研修は、全ての教員の重要な任務であり、初等中等教育の教員が行っているような、指導計画の作成、教材、評価、指導方法等について研究することは、当然のことである。青森大学は、FD 活動として行っている教育に関する研究を学術研究のレベルに引き上げ、協力体制を整えて、学生の学修能力の向上のための方法等に関する総合的・多角的な研究を進める必要がある。

青森大学ルネッサンスの推進とブランド力を高めるために

（１） 青森大学ルネッサンスの推進

青森大学ルネッサンスの改革は、教育、研究、社会貢献など大学運営全般にわたる改革であることを今一度想起したい。

青森大学ルネッサンスの最も重要な柱は、「地域とともに生きる大学」であり、「学生中心の大学」である。この２つの大きな目標に向かって、教育研究、社会貢献の活動が行われなければならない。

改革の推進により、青森大学の魅力を高め、存在感を向上させ、オール青森で支えられる信頼感のある大学にならなければならない。青森大学は、北東北にキラリと光る大学、文理揃った教育力があり、研究能力も高い大学と認識されるよう、教育研究等にわたる改革を進める必要がある。同時に、青森大学オープンキャンパスなどによる社会貢献の活動を強化するとともに、発信力を高めていくことが重要である。

特に確認しておきたいのは、学生の受入れ、教育課程の実施、就職支援等の一貫した教育力を高めるためには、研究能力の高さが伴わなければならないことである。

（２） 青森大学のブランド力を高める

大学のブランド力を高める必要があると言われる。一般に、ブランド力とは、特色や強みがよく知られていることから生まれる。青森大学は、親身な指導とアクティブ・ラーニングにより教育能力が高く、学生の可能性を伸ばし未来を拓く実践力が身に付く、就職率が高いなどの強みを持っている。青森大学は、地域社会から支えられており、地方公共団体、商工会議所などの経済団体等多くの人々が青森大学に好意的なイメージを持ち、信頼感を得てきていると言える。そして、他の大学と比べて、青森大学が優れていると評価する人々が増えてきている。

このように考えると、青森大学のブランド力を高めるための努力は、次第に実を結びつつあると言える。しかしながら、まだまだ不十分で、各段の工夫と努力が必要である。

青森大学のブランド力をさらに高めるには、青森大学ルネッサンスに基づく改革を一層推進することで、地域社会を担う人材を養成し、地域社会の活性化の拠点となっていくことが根幹であり、そのことをしっかり確認し、青森大学が学術の中心としての使命を持つことを踏まえ、教育活動だけでなく、研

究活動を強化向上させていくとともに、青森大学への好感度を高めていくためにも、外部への積極的な発信を行っていかなければならない。

学長の活動（平成２８年７月～１２月）

［随筆・評論等］

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第５２回「民意ということ」　第５３回「祭あれこれ」

第５４回「日本語について」　第５５回「国立劇場５０周年」

第５６回「移ろうものは」　第５７回「身体を鍛える」

評論「学びの温故知新」

第５１回「教育の機会均等」　第５２回「いじめ防止推進対策法の意義」

第５３回「生涯学習社会の再構築へ向けて」　第５４回「家庭教育行政の必要性」　第５５回「親の果たす役割と児童虐待」　第５６回「家族の大切さを教える」

「教育プロ」（株式会社 ERP 発行）掲載の「時評」

「奨学金制度の展望」（平成 28 年 8 月 16 日号）

「部活動をどうするか」（平成 28 年 10 月 18 日号）

「不登校対策と学校制度」（平成 28 年 12 月 20 日号）

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ラウンジ」

「ゆとりという亡霊」（第 6526 号（平成 28 年 9 月 9 日））

［社会的活動等］

日本イコモス国内委員会監事・第８小委員会委員長（理事会 9 月 10 日、理事会 12 月 10 日）

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会 11 月 14 日）

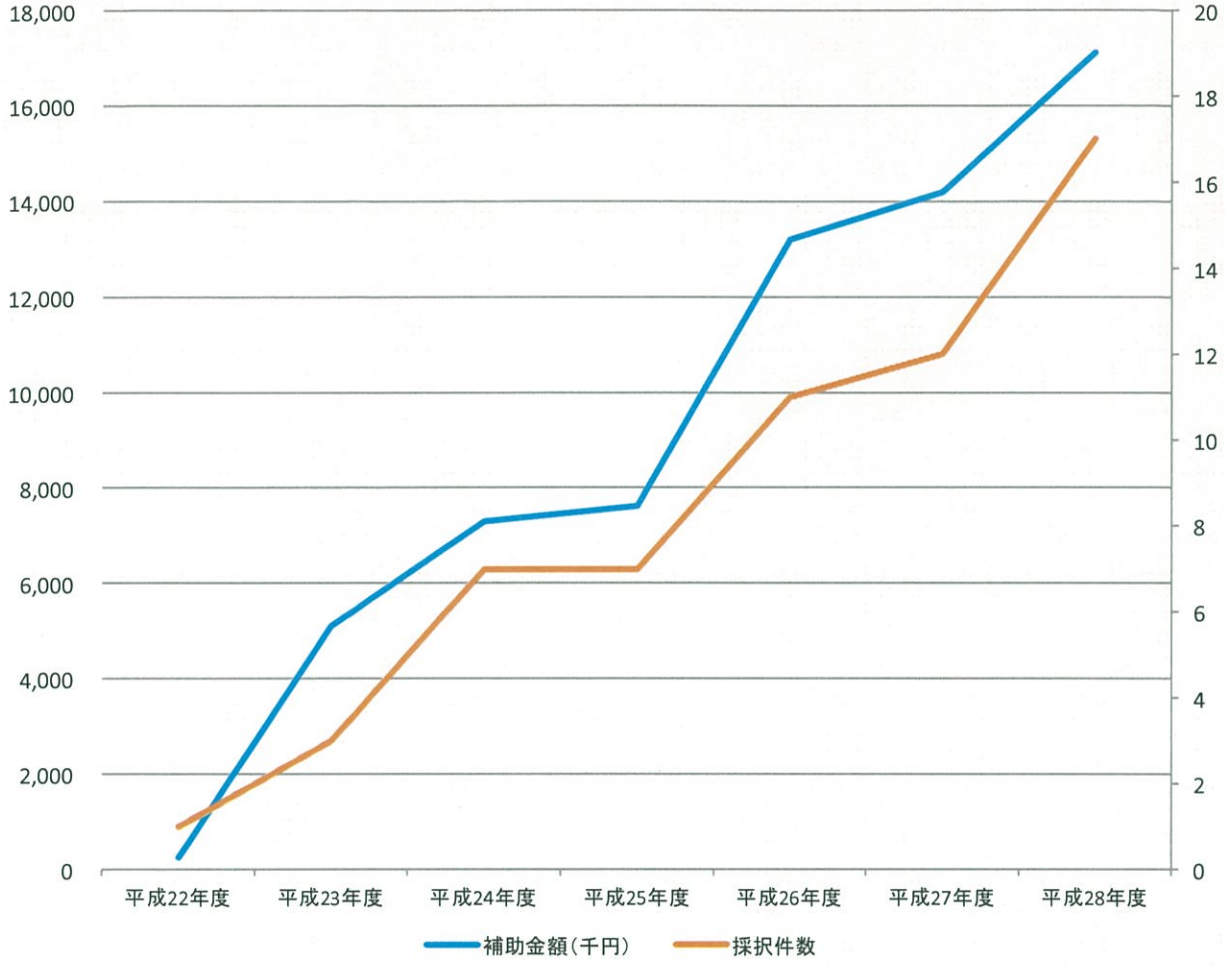
公益財団法人がん研究会評議員（評議員会 12 月 15 日）

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事（理事会 10 月 25 日）

全　学　の　動　向

外部研究費等の取得状況について

文部科学省の事業である科学研究費助成事業の採択件数は、各大学で研究能力・実績を示す指標として重要視されています。近年、本学の研究者が関わる課題の採択件数及び補助金額は大幅な増加傾向にあり、平成 22 年度は 1 件（26.0 万円）であったものが、平成 27 年には 12 件（1419.6 万円）にまで増えました。平成 28 年度は、採択件数では 17 件、助成額では 1713.8 万円まで伸び、採択件数及び助成額ともに過去最高となりました。また、平成 28 年度の科学研究費以外の外部研究費の取得額は、130.4 万円でした。科研費以外の研究助成の決定時期は、4 月以降の研究費も多くあるため、今後増える可能性があります。研究課題及び助成額などは、外部研究助成金の獲得状況の概要に示された表のとおりです。



科学研究費の採択件数及び採択額の推移

外部研究助成金の獲得状況の概要

文部科学省科学研究費助成事業

① 平成 28 年度新規採択状況

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） ソフトウエア情報学科 紅林　亘　助教	一般化位相縮約理論が拓く生体リズム現象の予測と制御に向けた新展開	1,560,000 円 直接経費 1,200,000 円 間接経費 360,000 円	若手研究（B） （平成 28～30 年度）
（研究代表者） 経営学科 石塚　ゆかり　教授	日台韓の口コミ行動に関する対象研究—医療と観光サービスに対する評価を中心に	1,4420,000 円 直接経費 1,400,000 円 間接経費 420,000 円	基盤研究(C) （平成 28～30 年度）
（研究代表者） 経営学科 吉川　正則　准教授 （分担者：他学 2 名）	アルペンスキーにおける高速ターン技術の実滑走計測・解析と定量的評価	2,730,000 円 直接経費 2,100,000 円 間接経費 630,000 円	基盤研究(C) （平成 28～30 年度）
（研究代表者） 社会学科 中村　和生　准講師 （分担者：他学 2 名）	初等・中等教育における「自然（現象）の科学的理解」の相互行為分析	1,713,400 円 直接経費 1,318,000 円 間接経費 395,400 円	基盤研究（C） （平成 28～30 年度）
（研究代表者） 薬学科 中田　和一　教授 （分担者：他機関 2 名）	航空需要に対応する海上設置型ローカライザの設置条件に関する研究	832,000 円 直接経費 640,000 円 間接経費 192,000 円	基盤研究（C） （平成 28～30 年度）

直接経費　¥6,658,000	間接経費　¥1,997,400

平成 28 年度以前採択・転入分　科学研究費助成事業等一覧

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 薬学科 岡島　史和　助教	pH 環境を感知する OGRI 受容体ファミリーの作用機構と生体機能 （2 年目、群馬大学より転入）	1,442,000 円 直接経費 1,500,000 円	基盤研究（B） （平成 27～29 年度）

（分担者：他学２名）		間接経費 450,000 円	
（研究代表者） 経営学科 沼田　郷　教授 （分担者：他学２名）	日本と台湾における光学産業の成長と連鎖	390,000 円 直接経費 300,000 円 間接経費 90,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 経営学科 岩淵　護　教授 （分担者：本学３名他学１名）	取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究	780,000 円 直接経費 600,000 円 間接経費 180,000 円	基盤研究(C) （平成 27～30 年度）
（研究代表者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 （分担者：本学１名夜学２名）	高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究	1,235,000 円 直接経費 950,000 円 間接経費 285,000 円	基盤研究（C） （平成 27～29 年度）
（研究代表者） ソフトウエア学科 小久保　温　准教授 （分担者：本学１名他学２名）	郵送調査と Web 調査のハイブリッド調査から完全 Web 調査への意向に関する研究	353,600 円 直接経費 272,000 円 間接経費 81,600 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 薬学科 大越　絵美加　講師 （分担者：他学１名）	口腔がん癌細胞の標的治療（抗 CD 治療）後に誘発される多剤耐性化の解明と克服	780,000 円 直接経費 600,000 円 間接経費 180,000 円	基盤研究(C) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 経営学科 渡部　あさみ　講師	先進国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理	650,000 円 直接経費 500,000 円 間接経費 150,000 円	若手研究（B） （平成 26～28 年度）

直接経費　￥4,722,000	間接経費　￥1,416,600

平成 28 年度　他機関の分担分

機関名	研究課題名・分担者	今年度補助金額	助成区分・期間
広島大学 由井　義道	人口減少期の都市地域における空き家問題の解決に向けた地理学的地域貢献研究（櫛引素夫）	507,000 円 直接経費 390,000 円 間接経費 117,000 円	基盤研究（B） （平成 27～29 年度）
秋田県立大学 渡部　諭	高齢者の認知機能の相違とエゴ・ネットワークに現象する特殊詐欺脆弱性リスクの解明（澁谷泰秀・櫛引素夫）	458,120 円 直接経費 352,400 円 間接経費 105,720 円	基盤研究(C) （平成 28～30 年度）
青森公立大学 佐々木　てる	人口減少社会の外国人統合政策（柏谷至・田中志子・澁谷泰秀・櫛引素夫）＜代表者が本学から転出＞	208,000 円 直接経費 160,000 円 間接経費 48,000 円	基盤研究(C) （平成 26～28 年度）
三重県立看護大学 浦野　茂	精神障害者の当事者研究場面の相互行為的構造（中村和生）	390,000 円 直接経費 300,000 円 間接経費 90,000 円	基盤研究（C） （平成 26～28 年度）
奈良大学 吉村　治正	社会学的知見に基づく Web 調査の代表性の分析（澁谷泰秀・小久保温）	781,300 円 直接経費 601,000 円 間接経費 180,300 円	基盤研究(C) （平成 27～29 年度）

直接経費　￥1,803,400	間接経費　￥541,020

日本学術振興会から受けているその他の事業

事業名	研究課題名・代表者名	委託経費（平成 28 年度）	委託期間
ひらめき☆ときめきサイエンス	薬を創る薬剤師（大越絵美加）	￥344,000	平成 28 年 9 月 10 日 （実施）

二国間交流事業（韓国）	インフラマゾーム調節におけるプロトン受容体機能の欠損マウスおを用いた解析（岡島史）	￥960,000	平成 27 年～28 年度（本年度から転入、契約は単年度ごと）

委託経費	小計　￥1,304,000

科学研究費助成事業（17 件）本学分の金額

直接経費　￥13,183,400	間接経費　￥3,955,020

合計　￥17,138,420

科学研究費助成事業に日本学術振興会から受けているその他の事業を加えた金額（19 件）

合計　￥18,442,420

② 平成 28 年度新規採択（研究分担者分）

（研究分担者） 社会学部 澁谷　泰秀　教授 ソフトウェア情報学部 小久保　温　准教授	高齢者の認知機能の相違とエゴ・ネットワークに現象する特殊詐欺脆弱性リスクの解明	458,120 円 直接経費 352,400 円 間接経費 105,720 円	研究代表者 秋田県立大学 渡部　諭　教授 基礎研究（C） （平成 28～30 年度）

直接経費　￥352,400	間接経費　￥105,720

③ 継続研究（研究代表者分）

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 経営学科 岩淵　護　准教授 （研究分担者） 中村　和彦　准教授 堀籠　崇　准教授 松本　大吾　講師	取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究	1,560,000 円 直接経費 1,200,000 円 間接経費 360,000 円	基盤研究(C) （平成 27 年～30 年度）
（研究代表者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 （研究分担者）	高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究	1,560,000 円 直接経費 1,200,000 円 間接経費	基盤研究(C) （平成 27 年～29 年度）

小久保　温　准教授		360,000 円	
（研究代表者） 薬学科 大越　絵実加　准教授	口腔癌がん幹細胞の標的治療(抗CD44 療法)後に誘発される多剤耐性化の解明と克服	1,950,000 円 直接経費 1,500,000 円 間接経費 450,000 円	基盤研究(C) （平成 26 年～29 年度）
（研究代表者） 経営学科 沼田　郷　教授	日本と台湾における光学産業の成長と連鎖	650,000 円 直接経費 500,000 円 間接経費 150,000 円	基盤研究(C) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 経営学科 渡部　あさみ　講師	先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理	1,170,000 円 直接経費 900,000 円 間接経費 270,000 円	若手研究（B） （平成 26～28 年度）
（研究代表者） ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授 （研究分担者） 社会学科 澁谷 泰秀 教授	郵送調査とWeb 調査のハイブリッド調査から完全Web 調査への移行に関する研究	2,080,000 円 直接経費 1,600,000 円 間接経費 480,000 円	基盤研究(C) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 経営学部 岩淵　護　准教授 （研究分担者） 経営学部 中村　和彦　准教授 堀籠　崇　准教授 松本　大吾　講師	取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究	780,000 円 直接経費 600,000 円 間接経費 180,000 円	基盤研究(C) （平成 27～30 年度）

直接経費　¥7,500,000	間接経費　¥2,250,000

④　継続研究（研究分担者分）

（研究分担者） 社会学部 澁谷 泰秀　教授 柏谷　至　教授 櫛引 素夫　准教授 田中 志子　准教授	人口減少社会の外国人統合政策 ～青森県における外国籍者の事例から～	208,000 円 直接経費 160,000 円 間接経費 48,000 円	（研究代表者） 青森公立大学 佐々木 てる　准教授 基盤研究(C) （平成 26～28 年度）
（研究分担者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授	社会学的知見に基づく Web 調査の代表性の分析	713,700 円 直接経費 549,000 円 間接経費 164,700 円	研究代表者 奈良大学 吉村 治正 基盤研究（C） （平成 27 年～29 年度）
（研究分担者） 社会学科 櫛引　素夫　准教授	人口減少期の都市地域における空き家問題の解決に向けた地理学的地域貢献研究	507,000 円 直接経費 390,000 円 間接経費 117,000 円	研究代表者 広島大学 由井 義通 基盤研究（B） （平成 27 年～30 年度）
（研究分担者） 社会学部 中村　和生　准教授	精神障害者の当事者研究場面の相互行為的構造：エスノメソドロジーによる解明	390,000 円 直接経費 300,000 円 間接経費 90,000 円	（研究代表者） 三重県立看護大学 浦野　茂　教授 基盤研究(C) （平成 26～28 年度）

直接経費　¥1,399,000	間接経費　¥419,700

⑤　科研費以外の研究

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成財団・期間
（研究分担者） 社会学科 柏谷　至　教授	地域に資する再生可能エネルギー事業開発をめぐる持続性学の構築	＊年度別配分額未決定	日本学術振興会 （課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業） （平成 26 年 10 月

			～29 年 9 月）
（研究分担者） 薬学科 鈴木 克彦　准教授	探針修飾 AFM による UGGT の立体構造解析	4,056,000 円 直接経費 3,120,000 円 間接経費 936,000 円	研究総括 伊藤幸成 （独立行政法人理化学研究所） 契約期間： 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日

直接経費　¥3,120,000	間接経費　¥936,000

※配分額未決定分を除く

⑥ 平成 28 年度青森大学研究プロジェクト

青森大学教育研究プロジェクトは、平成 26 年度から崎谷学長の主導により、学長裁量経費を充て、本学の教育研究を格段に推進していくため開始されたもので、本年度で 3 年目となる。本年度の教育研究プロジェクトは、下記の表に示されるとおり、研究推進部門が 8 件、教育改革部門が 3 件の採択となった。これまでの教育研究プロジェクトで採択された研究の中から科学研究費補助金や外部研究補助金の採択につながる研究が複数あること、さらに学生が地域貢献活動や研究活動に直接参加するプロジェクトが存在することなど、本学の教育研究の推進に大きく貢献している。

本年度は、平成 28 年 12 月 21 日に中間発表会を開催し、各教育研究プロジェクトの進捗状況が報告された。平成 29 年 3 月には最終発表会を開催し、同年 5 月には最終報告書を提出する予定である。

平成 28 年度　青森大学教育研究プロジェクト

研究推進部門

No.	プロジェクト名	代表者氏名	参加者氏名
1	食品成分の生活習慣病予防効果に関する研究	益見　厚子	岩船　裕志（薬学部５年生）、 佐藤　伸（青森県立保健大学教授）
2	細胞内寄生性細菌に対するインターロイキン-33 が誘導する自然免疫細胞活性化作用の解析	福井　雅之	
3	キラルスルホキシドを用いた２点不斉アルドール反応の開発	中北　敏賀	鈴木　克彦、植木　章晴
4	ノシセプチンやその代謝物による記憶機能制御に関与する分子メカニズムの解明	三輪　将也	上家　勝芳
5	生物学的応用を指向した集積型ルイスａタンデムリピートの合成	植木　章晴	鈴木　克彦、中北　敏賀
6	後発医薬品のメーカーによる品質差異の比較検討	井沼　道子	三浦　裕也

7	バキュロウイルスベクターを用いたガンワクチン開発とガンに対する効果の解析	水谷　征法	水野　憲一、木立　由美 阿部　一生、五月女　雄一、筒井志帆（薬学部５年生）
8	北東北地域における光学産業の発展プロセス－技術移転と地場企業の創出を中心に－	沼田　郷	

教育改革部門

No.		プロジェクト名	代表者氏名
9	企業および業界研究を通じた学生の就業意識の向上プロジェクト－活きた経営学の体得－	中村　和彦	森　宏之
10	地域貢献活動と連携した授業展開の実践試行ならびに学生への効果の検証	櫛引　素夫	沼田　郷、坂井　雄介
11	青森いきいき脳健康プロジェクト （“高齢社会対応”地域密着型青森大学のブランディング）	大上　哲也	＊参加者多数のため申請書参照

大学の行事（平成 28 年 1 月～6 月）

大学の行事（平成 28 年 7 月～12 月）

・７月　９日　　青森大学ＪＡＺＺフェスティバル
・７月１６日　　後援会情報交換会～１７日
・８月　３日　　ねぶた出陣～７日
・８月　６日　　第２回オープンキャンパス
・９月１０日　　第３回オープンキャンパス
・９月１５日　　第１回青森県観光人材育成会議
・９月１７日　　薬剤師体験セミナー（むつ、弘前、五所川原）～１９日
・９月２４日　　夏季教職員研修会
・９月２６日　　秋・学位記授与式
・１０月　１日～２日　大学祭
・１０月２９日　第８回 学びの森市民セミナー
・１２月１８日　第４回 高校生科学研究コンテスト
・１２月２１日　冬季教職員研修会

教職員研修会(9/24, 12/21)

9 月 24 日（土）に「青森大学の改革の成果を検証し、改革を継続し、発展させるために」をテーマに夏季教職員研修会を実施しました。文部科学省大臣官房審議官松尾泰樹氏による基調講演「大学改革と地方私立大学への期待」に続けて、地域貢献・学習指導・ポリシーの見直し・FD・キャリア支援・SD などの立場から、これまでの大学の改革の取り組みの成果と今後の展望を報告、ディスカッションを行い

ました。

12 月 21 日（水）に「青森大学のブランド力の向上―研究活動の推進を中心に―」をテーマに冬季教職員研修会を実施しました。研究の観点から大学の魅力を高め、ブランドにつなげる方策について全教職での検討を行いました。前半ではこれまでの研究活動の成果と課題について、全学的なブランディングの取り組みや研究トピックスごとに報告されました。また事務局から研究者の倫理に関する注意事項などが報告されました。後半では「青森大学のブランド力を高めるための研究の方向性と教育への還元について」をテーマに、全教職員が５つの分科会に分かれて討論を行いました。最後に各分科会からの報告を行い、検討・まとめを行いました。

青森大学教員出張講義

NO	依　頼　先	講義日	氏　名	学　科	講義テーマ
1	あおもり若者プロジェクト クリエイト	平成 28 年 2 月 27 日	櫛引素夫	社会学部	新幹線が地域に与える影響について
2	あおもり若者プロジェクト クリエイト	平成 28 年 3 月 13 日	櫛引素夫	社会学部	北海道新幹線開業を生かしたまちづくり
3	青森市沖館市民センター	平成 28 年 4 月 23 日	中田吉光	経営学部	元気アップル体操
4	藤崎町福祉課健康係	平成 28 年 6 月 3 日	藤林正雄	社会学部	改めて『聴く』を学ぶ
5	青森県立浪岡高等学校	平成 28 年 6 月 24 日	清川繁人	薬学部	陸奥湾を回遊するイルカ
6	青森県立浪岡高等学校	平成 28 年 6 月 24 日	角田均	ソフトウェア情報学部	ゲーミフィケーション ～ゲームの力で世界を変える～
7	あおもり健考会	平成 28 年 9 月 6 日	上田條二	薬学部	漢方について
8	クラ・ゼミ青森篠田校	平成 28 年 9 月 10 日	鈴木康弘	社会学部	幼児・児童の発達について
9	青森菱友会	平成 28 年 9 月 15 日	三浦裕也	薬学部	先発品と後発品の上手な使い分けについて
10	クラ・ゼミ青森篠田校	平成 28 年 9 月 24 日	鈴木康弘	社会学部	ABA 応用行動分析について
11	黒石市企画財政部企画課	平成 28 年 10 年 4 日	櫛引素夫	社会学部	地域防災をどう向上させるか
12	（公社）青森県不動産鑑定士協会	平成 28 年 10 月 14	櫛引素夫	社会学部	新幹線ネットワークを考える

		日			
13	クラ・ゼミ青森篠田校	平成28年10月15日	船木昭夫	社会学部	SST・指導者の研修
14	クラ・ゼミ青森篠田校	平成28年10月17日	船木昭夫	社会学部	障がい者差別解消法
15	五戸町教育委員会	平成28年10月26日	大上哲也	薬学部	いきいき脳健康教室
16	青森市立佃中学校	平成28年11月9日	大上哲也	薬学部	いきいき脳健康教室
17	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構青森支部	平成28年11月10日	船木昭夫	社会学部	カウンセリング
18	青森市中央市民センター	平成28年11月16日	水野憲一	薬学部	医薬品の効くしくみ
19	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構青森支部 青森職業能力開発促進センター	平成28年11月16日	船木昭夫	社会学部	明るい職場・家庭とメンタルヘルス~ストレスとコミュニケーションを考える~
20	青森市学校保健会	平成28年11月22日	船木昭夫	社会学部	メンタルヘルス・SST
21	岩手県立久慈東高等学校	平成28年11月25日	藤林正雄	社会学部	人間関係で悩まないために
22	青森市養護教諭会高校部会	平成28年12月1日	船木昭夫	社会学部	対人援助のためのケースカンファレンスの方法
23	青森市養護教諭会高校部会	平成28年12月2日	船木昭夫	社会学部	高校生のこころの健康
24	青森市中央市民センター	平成28年12月2日	上田條二	薬学部	身近な民間薬
25	一般社団法人日本	平成28年	船木昭夫	社会学部	青森県内事業所におけるメンタルヘル

	産業カウンセラー協会東北支部	12 月 3 日			スの現状と課題、対策について
26	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	平成 28 年 12 月 7 日	岩淵護	経営学部	コンプライアンスに関する様々な問題事例とその対策
27	青森市中央市民センター	平成 28 年 12 月 13 日	大越絵実加	薬学部	医薬品以外の薬学分野
28	秋田県鹿角市立十和田小学校	平成 28 年 12 月 15 日	船木昭夫	社会学部	対人援助のためのケースカンファレンスの方法
29	NPO 法人ほほえみの会	平成 28 年 12 月 19 日	船木昭夫	社会学部	SST ソーシャル・スキルズ・トレーニング

平成 28 年度青大祭が開催されました！！

10 月 1 日、2 日の両日、青大祭～Revolution～が開催されました。秋晴れの好天に恵まれ、中庭を主会場に開かれた大学祭には、子供から大人まで約 3,800 人の方が訪れました。　イベント部門では、お笑い芸人のじゅんいちダビットソンとみっちーのライブが会場を盛り上げました。BLUE フェスティバル（新体操演技）には、会場となった正徳館に約 2,000 人の観客が集まり、華麗な演技に酔いしれました。恒例の金多豆蔵人形劇にも、多くの地域の方々が訪れ、人気を集めていました。

学生の部・サークルの企画では、お笑い研究部の寄席や茶道部のお手前が披露され、模擬店では、後援会（成田武司会長）による縄文うどんやドーナツ販売、学生らの喫茶コーナや、焼き鳥、焼きそば、せんべい汁などの販売に人垣ができ盛況でした。展示部門では、薬学部の「すこやか診断」と「薬研カフェ」の他、各学部の特色ある展示や発表が行われていました。その他、第一回青森県高校生写真コンテスト、ねぶた・ねぷた専門図書館、留学生による母国紹介等々、工夫を凝らした展示が行われ、外部団体からも、三内丸山縄文遺跡応援隊、青森県防災士会、幸畑町づくり協議会主催の作品展などの参加があり、地域と連携した大学祭となりました。

これまで頑張ってきた大学祭実行委員会（北谷優典委員長）の皆さん、学生と共に準備に奔走された教員・職員の皆さんをはじめ、開催にあたってご協力いただきました全ての方々にお礼申し上げます。本当にありがとうございました！！

（　教務・学生課　）

［第４回高校生科学研究コンテスト］（堀端 孝俊）

平成 28 年度 第 4 回高校生科学研究コンテスト（主催：青森大学　共催：青森県教育委員会　後援：青森県高等学校文化連盟）が 12 月 18 日、本学 5 号館を会場に開催されました。青森県内の高等学校 10 校から 121 名の参加があり、サイエンス部門、テクノロジー部門合わせて 32 チームが、A 会場・B 会場に分かれて口頭発表を行いました。本学のソフトウェア情報学部と薬学部の教員による審査の結果、各賞は以下のとおりとなりました。

■最優秀賞

青森県立青森南高等学校：地学「飛行機雲の研究Ⅱ～長さと形～」

■優秀賞（2チーム）

青森県立青森商業高等学校：「ジャイロセンサと加速度センサを利用したアプリ制作」

青森県立八戸高等学校：「レッドロビンの葉の色をコントロールすることは可能か」

■ブルーリボン賞（2チーム）

（特にアイデアや着眼点に優れた研究に対し、将来のさらなる進展に期待を込めて贈呈）

青森県立八戸工業高等学校：「スライムで始める人間工学」

青森県立五所川原高等学校：生物「Stink bug ～それでもあなたを愛してる～」

■光言賞（２チーム）

（特に表現力豊かで説得力のあるプレゼンテーションを行った研究に対して贈呈）

青森県立三本木高等学校：「ルービックキューブの新しい解法を見つけよう」

青森県立柏木農業高等学校：「きのこをつかった稲わらの活用」

今回は、普通科高校以外に、工業高校、商業高校、農業高校からも発表があり、各校とも十分に準備をした上で発表に臨んでいて大変充実した内容のコンテストになりました。最優秀賞に輝いたのは昨年に引き続き青森南高等学校で、「飛行機雲の研究Ⅱ　～長さと形～」は審査員から「雲を異なる場所から立体的に形状分析する手法を用いており、空のスケールが想像できて大変面白いです」など高い評価を得ました。また、この研究は、科学研究コンテストの後に東京で開催された日本学生科学賞最終中央審査会において「全日本科学教育振興委員会賞」を受賞、来年米国ロサンゼルスで開催される国際大会（ＩｎｔｅｌＩＳＥＦ2017）への派遣が内定したとのことです。本コンテストが高校生の科学研究の芽を育み、その成果を世界に向けて発信することになったとのニュースは、関係者一同望外の喜びとするところです。

第4回高校生科学研究コンテスト講評

高校生科学研究コンテスト実行委員会
委員長　堀端 孝俊

第4回高校生科学研究コンテスト（青森大学主催、青森県教育委員会共催、青森県高等学校文化連盟後援）は12月18日（日）に本学で開催され、県内10の高校から121名の生徒が参加し、引率の先生方も15名にのぼりました。各校とも十分に準備をした上で発表に臨んでおり、日頃の研鑽の成果を競い合う大変充実した内容のコンテストになりました。今回のコンテストの特徴として、普通高校、工業高校、商業高校、農業高校からそれぞれ参加申し込みがあり、本コンテストが県内の幅広い高校から受け入れられつつあることを知ることができました。今回はサイエンス部門とテクノロジー部門合わせて32件の応募があり、これは昨年の30件を上回りました。発表も昨年同様二つの会場を使うパラレルセッションで実施し、A会場では、主に物理、天文、数学、地学、工学分野の発表を行いソフトウェア情報学部の教員が審査を担当、B会場では、主に生物、化学、生活・食品分野の発表を薬学部の教員が審査しました。審査委員に選ばれた教員は、例年全員が事前に担当会場で発表予定のすべての発表要旨に目を通し、質問点をあらかじめ整理した上で審査に臨んでいます。今回お届けする審査結果が、今後の研究の指針として少しでも役立っていただけることを期待します。

両会場を通しての最優秀賞にはサイエンス部門から青森南高等学校の「飛行機雲の研究Ⅱ～長さと形～」が選ばれました。青森南高校は昨年に続いての受賞となりました。この研究は昨年は、「飛行機雲の研究 ～出現する条件と形～」として発表され、入賞こそしませんでしたがデータの解釈において理論的見地から仮説を提示して議論しており学術的な方法論を正しく用いている点が評価できる、など高い評価を受けていました。今回の発表に対して審査員からは、雲を異なる場所から立体的に形状分析する手法を用いていて空のスケールが想像できて大変面白い、日頃から目にする現象についてその原因を解明するために多くのデータを集めしっかり考察している、など今回も高い評価を得ました。また、飛行機雲の長さと形について定量性(基準)を示した方が良い、10km離れた2ヶ所での測定について事前の計画等の説明があると良い、などさらなる発展に期待する言葉もありました。この研究は、科学コンテストの後に東京で開催された日本学生科学賞最終中央審査会において「全日本科学教育振興委員会賞」を受賞、来年米国ロサンゼルスで開催される国際大会（ＩｎｔｅｌＩＳＥＦ2017）への派遣が内定したとのことです。本コンテストが高校生の科学研究の芽を育み、その成果が世界に向けて発信されることは関係者一同望外の喜びとするところです。

優秀賞は各会場1件ずつの発表が選ばれました。A会場ではテクノロジー部門からの入賞で青森商業高等学校の「ジャイロセンサと加速度センサを利用したアプリ制作」が受賞しました。タブレット端末に組み込まれているジャイロセンサや加速度センサを利用するアプリを制作するためにはオブジェクト指向言語によるプログラミングというハードルを越える必要がありますが敢えてこの意欲的なテーマに取り組んだことが高く評価されました。B会場ではサイエンス部門から八戸高等学校の「レッドロビンの葉の色をコントロールすることは可能か」が受賞しました。レッドロビンが新芽から成木になる

までの葉の組織変化まで理解しており発表時の質疑応答が的確だった、全体的によくまとめられており高校生としてはレベルの高い研究といえる、などの評価を得ました。

アイデアや着眼点の優れた研究に対し将来のさらなる発展に期待を込めて贈呈されるブルーリボン賞には、A 会場では八戸工業高等学校の「スライムで始める人間工学」が選ばれました。これもテクノロジー部門での発表でした。身近な素材である洗濯糊などを使ってスライムを作りその粘度を測定するための装置を工夫して自作したことなどが評価されました。B 会場では、サイエンス部門から五所川原高等学校の「Stink bug ～それでもあなたを愛してる～」が入賞しました。カメムシの匂いを消そうとする試みがとても素晴らしかった、あまり研究材料として好まれないであろうカメムシをあえて選びしかもその臭いを実験対象にしたあたりの着想、いい結果が出ればなかなか実用性のある研究になるかもしれません。

表現力豊かで説得力のあるプレゼンテーションを行った研究に対して贈呈される光言賞には、A 会場ではサイエンス部門から三本木高等学校の「ルービックキューブの新しい解法を見つけよう」が受賞しました。いろいろな配置と移動や回転のしかたを簡潔に記述する方法を工夫し解法を考えやすくしている、発表方法やスライドの作り方が良く工夫されていてとても分かりやすい発表だった、などすぐれたプレゼンに対する評価をいただきました。B 会場では、同じくサイエンス部門から柏木農業高等学校の「きのこをつかった稲わらの活用」が入賞しました。稲わらの有効利用に対して新しい知見を与えその上で新しい利用法を考え出している点で興味深い、非常に見やすく分かりやすいスライドとプレゼンテーションだった、などこちらもすぐれたプレゼンへの評価をいただきました。

今回受賞にはいたりませんでしたが、八戸工業高等学校の「世界唯一五農高産赤～いリンゴと TiO_2 が創りだす太陽電池」も高い評価を受けた発表でした。五所川原市で栽培されている赤い果肉のりんご「御所川原」の色素を使って色素増感型太陽電池を作成するという地元の話題に結びついた大変独創的な研究である、次世代型太陽電池の開発に取り組んでいることに感心した、特にりんごの色素に着目した点が良いと思う、などの評価がありました。また、三本木高等学校の「最速クリップモーターカー～revenge～」も高い評価でした。「弐号機」では、レコードプレーヤーやハードディスクドライブなどにも応用されているダイレクトドライブ方式を採用して良い結果を出している、さらに「G 号」では電池を回転させるという独創的な方法を考案している、などの評価を得ました。

審査項目は、「テーマの独創性」、「調査・探求の方法」、「情報収集の努力度」、「研究の達成度」、「プレゼンテーション」の５項目について両会場合わせて9名の審査員で審査を行いました。採点結果は、審査員によるコメントと全体の中における自らの評価の位置づけが分かるように表現したレーダーチャートを添えています。この採点結果は、今後の研究の指針として大変役立っているとのお言葉を参加校の先生方からいただいております。コンテストに参加した生徒の皆さんには、さらなる高嶺を目指して研究に励んで頂きたいと思います。研究は、そのテーマに対して先人は何を考え、何を目指し、どこまで明らかにし、何が未解決なのか、すなわちその分野の歴史と現状を知ることに始まります。そのことによって自らテーマを設定し、自らの力で探求し、そして今までにない新たな知見に到達することが

求められているのです。研究の内容をさらに深め、発表の練習を繰り返し、来年の新たな舞台で皆さんのさらに成長した姿を見せて頂けることを心から期待しています

A pessimist sees the difficulty in every opportunity, an optimist sees the opportunity in every difficulty

Winston Churchill

青森大学附属図書館

青大図書館ニュース「よむ☆よむ」No. 11（2016 年 11 月 30 日）ができました。学生編集スタッフのみなさんが作成してくれましたが今号は編集スタッフがすすめる「雑誌」を紹介しています。
また、平成 28 年 12 月 16 日（金）第 5 回図書委員会では、第 22 回読書感想文コンクールの最終選考を行いました。最終的な応募作品数は 34 編であり、事前に第 1 次審査を行い、上位 8 作品から入選候補を選考しました。○金賞候補 1 編、○銀賞候補 2 編、○銅賞候補 3 編です。

青大図書館ニュース

よむ☆よむ

青森大学附属図書館　No.11　2016.11.30

◇通常開館◇
本館　8:30~19:50
新館　8:30~16:50
◇土曜日◇
本館　8:30~16:30
(又は新館)
※貸出の手続きは閉館の10分前までにお願いします。

見たい? 知りたい? 聞いてみよう!

青大図書館所蔵雑誌バックナンバー♪

ココを開けると、バックナンバーがあるよ!!

気がつけば11月も終わり、いよいよ12月…
肌寒い風が身にしみてくる時期を迎えましたね!
今回は、図書館本館にある雑誌のバックナンバーについて紹介します。
「バックナンバー」とは、過去に刊行された雑誌の号です。
これさえわかれば、見逃してしまった号やもう一度見たい号も見ることができます!
ぜひ、図書館職員へお気軽にご相談ください♪

よむよむ学生編集スタッフが選ぶオススメの1冊♪

KADOKAWAが発行する月刊の総合文芸誌

『ダ・ヴィンチ』No.271

この雑誌は、小説だけでなくマンガも積極的に紹介！
また、表紙をお気に入りの1冊を手にした芸能人が飾っているので、好きな芸能人のオススメの1冊がわかるかも！？
No.271では、現在放送中のテレビドラマ『地味にスゴイ！ 校閲ガール・河野悦子』に出演している石原さとみさんのドラマ化記念対談やテレビアニメ『3月のライオン』特集などおもしろコンテンツがてんこ盛り!!
今年の人気・話題作の裏側にぜひ触れてみてはいかが?

※現在、No.272まであります。詳しくは、WebOPACで検索してみてね!

※よむよむ学生編集スタッフが作成しました

第22回　読書感想文コンクール

入選者発表

図書館主催の読書感想文コンクールに応募された作品から厳正な審査の結果以下の通り決定しました。おめでとうございます。

☆金賞　ソ 27023　舘田　真純さん（ソフトウェア情報学部 2 年）
『利他のすすめ』を読んで
利他のすすめ～チョーク工場で学んだ幸せに生きる18の知恵／大山泰弘著
WAVE 出版

○銀賞　経 26034　左右木　星斗さん（経営学部 3 年）
『佐賀のがばいばあちゃん』
佐賀のがばいばあちゃん／島田洋七著
徳間書店

○銀賞　ソ 25005　久崎　孔明さん（ソフトウェア情報学部 4 年）
『最後のプレイボール』
最後のプレイボール／岩崎夏海著
廣済堂出版

△銅賞　経 26054　前田　豊さん（経営学部 3 年）
『怒る技術』
怒る技術／中島義道著
PHP 研究所

△銅賞　薬 28007　今泉　帆乃夏さん（薬学部 1 年）
『仮面病棟』を読んで
仮面病棟／知念実希人著
実業之日本社

△銅賞　社 27013　木島　雄大さん（社会学部 2 年）
『汚れつちまった悲しみに』
汚れつちまった悲しみに……中原中也詩集
／中原中也著, 佐々木幹郎編
KADOKAWA（角川文庫）

※入選者表彰式を後日行います。詳細は決まり次第連絡します。

青森大学附属図書館

国際教育センター

留学生支援と語学教育の充実等への対応の体制整備－留学生支援会議と国際教育センター

青森大学は、留学生が安心して学業に励むことができるよう、全学あげて支援・助言などを行うため、これまで、学長を局長とする留学生総合支援局を設け奨学金の選考等の支援策を講じてきました。国際化の進展に伴い、留学生を受け入れ、本学の教育を充実させ日本人学生との交流によるキャンパスの活性化を進めるなどのため、また、語学教育を進展させ外国の大学との交流を図ることなどが重要な課題となっています。

平成２８年４月１日、青森山田学園国際教育センターが置かれ、青森大学における留学生の受け入れと国際交流に関する企画調整等の業務を行うこととなったことに伴い、青森大学の留学生総合支援局を廃止し、国際教育センターと連携し、留学生の学業、生活等に関し支援を行うため「青森大学留学生支援会議」を新たに設置しました。

さらに平成２８年１１月１日、青森山田学園国際教育センターを廃止し、「青森大学国際教育センター」を設置しました。青森大学国際教育センターは、本学の教育の方針及び計画に基づき、青森大学留学生支援会議、各学部、事務局入試課、教務・学生課、就職課等との緊密な連携の下、国際化・グローバル化の進展に対処するための教育、留学生の受け入れや日本語等の教育、生活上の指導助言、本学学生の外国の大学への派遣などの業務を行っています。

キャリア支援チーム

１．キャリア教育と就職支援の体制－キャリア支援チーム

青森大学は、学生の就職を円滑に進めるため、これまで就職委員会を置き、就職課が事務局となり各学部の就職委員が中心となって学生の就職指導や就職ガイダンスなど就職活動の支援を行ってきました。しかしながら、各学部の委員による審議により計画し実施していくに当たって迅速性や機動性に欠けることもあり、このような就職支援については学長の統括の下、計画と方針を明確にして、教職協働により全ての教職員が協力して計画的・多面的に実施することが有効であることにかんがみ、平成２８年３月１日、青森大学就職支援推進チームを設置し、就職支援推進チームは、学長統括の下、就職支援ついての具体的な支援活動を機動的に行うことを任務としました。さらに、就職支援は、本学のキャリア教育との緊密な関わりを踏まえ推進すべきこと等にかんがみ、平成２８年８月１日、この就職支援推進チームを青森大学キャリア支援チーム」に改組しました。

したがって、現在、青森大学の学生の就職とキャリア教育については、このキャリア支援チームが推進役となっています。キャリア支援チームの構成員は、各学部の教員及び就職課等の事務局員から成り、積極的な事業を展開しています。

２．就職・進路状況

経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部４年生、薬学部６年生の就職・進路状況については、昨年度の同時期に比べ内定率が高い状態を維持できています。（平成２８年１２月２０日時点の４学部の内定率６８．３％（昨年度同時期４４．５％））

新卒の求人状況が好調なこともありますが、学生が早期に就職活動を始めたことによって内定率が高い状態となっていると思われます。また、就職活動を行っている学生についても、年度内に進路を決定させるために就職活動を続けています。

３．就職活動準備本格化

平成２９年度卒の大学生の就職活動について、企業の広報解禁が３月１日、採用開始が６月１日と決定し、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の３年生の就職活動に向けた準備が本格化しています。３月１日から就職活動のスタートダッシュができるように、また、学生の希望する企業の内定獲得をより確実なものとするため、「就職活動実践演習Ｂ」において、外部講師を招き、就職活動に必要なスキルを身に付けています。

平成２８年１０月７日（金）、１２月９日（金）では、グループディスカッションの方法を学びました。自分の考えを述べるときにはＰＲＥＰ（結論・理由・事例・結論）で話すこと。話の聞き方や姿勢について、与えられたテーマの分析など、より具体的な手法を学びました。

はじめは自分の意見をうまく話せない学生や、消極的な姿も見られましたが、テーマを３つ４つと取り組んでいくと、制限時間内に全員が意見を述べ、まとめることができるようになりました。

グループディスカッションは、どのような意見をまとめるかも大事ですが、グループの中でそれぞれが役割を務め、お互いの意見を取り入れながら一つの意見にまとめていく過程も評価の対象として見られるということを学びました。（社会学部の記事参照）

「就職活動実践演習Ｂ」における外部講師による授業は、３月まで予定され、３月１日の広報解禁と共に全員がスタートダッシュできるための準備を現在行っています。

【就職活動実践演習Ｂにおける外部講師の授業予定】

月日	時間	内容
10 月 7 日（金）	4・5 限	グループディスカッション演習
12 月 9 日（金）	4・5 限	グループディスカッション演習
2 月 7 日（火）	3～5 限	自己分析、面接指導
2 月 8 日（水）	3～5 限	ＥＳ、履歴書の書き方
2 月 27 日（月）	3～5 限	自己分析、身だしなみ指導
2 月 28 日（火）	9:00～17:00	本学主催合同企業セミナー
3 月 9 日（木）	時間未定	マイナビ主催合同企業説明会
3 月 13 日（月）	3～5 限	面接指導
3 月 14 日（火）	時間未定	リクナビ主催合同企業説明会

薬学部５年生についても、就職活動は３月１日解禁ですが、実務実習があるため、本学的な就職活動は４月に入ってからとなります。就職活動の準備の一つとして、平成２８年１２月１４日（水）、薬学部５年生向け就職ガイダンスを開催し、薬学部の学生においても、早い段階でしっかり業界研究を行い、業界や企業を知った上で、早めの就職活動を行うことが有意義であることについての指導を行いました。

地域貢献センター

JR 東日本「駅からハイキング」に協力

青森大学の学生 5 人が 7 月 10 日、JR 東日本が主催した、今別町での「駅からハイキング」企画に学生ガイドとして参加しました。

「駅からハイキング」は、各地の鉄道沿線のさまざまな魅力を、地元の協力で体験してもらう企画です。今回は、津軽二股駅（奥津軽いまべつ駅）を起点とする、新設の「上股（うえまた）渓流林道コース」が舞台となりました。首都圏など県内外から訪れた約 40 人の参加者は、山野草や杉木立、エゾハルゼミ・ウグイスの声に囲まれ、自然豊かな 6km のコースを散策しました。

学生たちは、今別町などの協力により、3 度にわたる地元の調査を実施。参加者用資料の作成にも携わって当日を迎えました。最初は緊張した面持ちでしたが、やがて会話が弾むようになり、雨天の予報が外れての好天にも恵まれて、充実した 1 日を過ごしました。

青森大学と幸畑団地地区まちづくり協議会の合同防災訓練を実施

青森大学と幸畑団地地区まちづくり協議会、NPO 法人青森県防災士会青森支部は 7 月 24 日、大学の第二体育館「正徳館」を会場に、初の合同防災訓練を実施しました。約 50 人が参加し、防災士会支部会員が講師を務めて、学生と地域の方々、青森市市民協働推進課の職員らが、災害時の応急措置や防災の心構えを学びました。

参加者らは３班に分かれて、緊急心肺蘇生法と AED の使い方、毛布を担架代わりに使う搬送法、水消火器の使用法を学びました。「相手が子どもの場合はどのように心肺蘇生を行うのか」「消火器にはどんな種類があるのか」と活発に質問しながら受講し、「頭の方向に気をつけて搬送することの大切さがわかった」「心肺蘇生は思いのほか力が必要」といった感想を語り合っていました。

訓練は、青森大学と青森市が今年 5 月、「災害時における避難所等としての施設使用に関する協定」を結んだことにより、正徳館を緊急時の避難所として活用することが決まったのを契機に企画しました。青森県防災士会は、災害に強い地域づくりを目指して 2014 年 9 月、青森大学と連携協定を結んでいます。

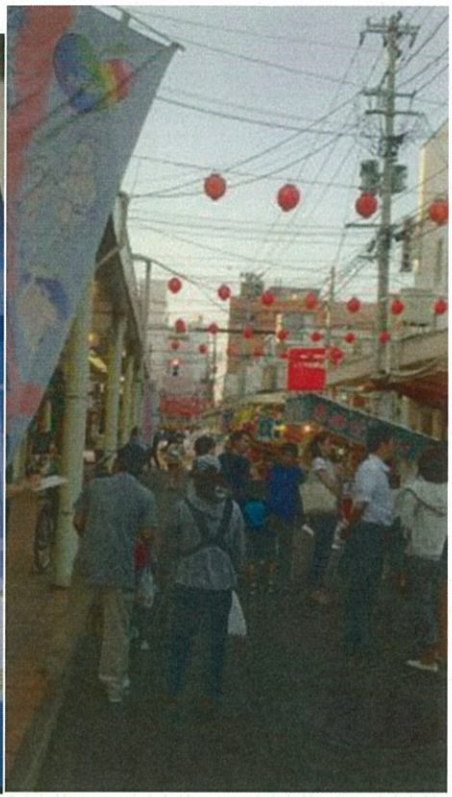
災害は忘れたころにやってくると言います。これからも、青森大学は、学生や教職員の防災意識の向上を図り、地域の方々と連携した防災対策が進むように、努力していきます。

経営学部学生による商店街活性化プロジェクト

経営学部沼田ゼミでは、青森市まちなかフィールドスタディー支援事業補助金を活用した夜店通り商店街活性化プロジェクトを始動させています。

その一環として、7 月 22 日に夜店通り商店街で行われた「夜店まつり」の広報・集客活動としてポスターとチラシを作成し、市内各所で掲示、配布活動を行ってまいりました。また、当日はご来場いただいた皆様のご協力の下、学生によるアンケート調査を実施し、貴重なご意見を頂戴いたしました。

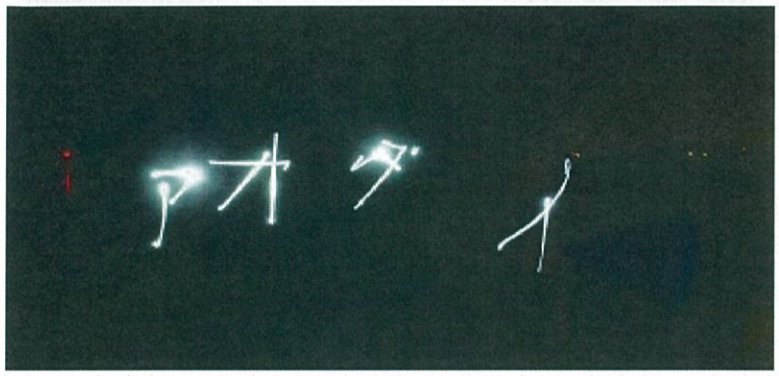
皆様のご意見は、今後の「夜店まつり」に反映させていただきたいと考えております。



「第２回　ひらないのお月見」開催

９月 17 日（土）、旧浅所小学校及び浅所海岸において、本年で第２回目となる「ひらないのお月見」を開催いたしました（青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会主催）。
あいにくの空模様のなか、ご参加いただきまして誠にありがとうございました。

イベントでは、初の試みとなる「トリジン（白鳥人）」の制作体験やほたて貝を使用したオーナメントのワークショップを行ったほか、場所を浅所海岸に移して「空に大きく字を書こう－光のメッセージコンテスト」などを行いました。



イベント企画をプレゼン・東北町森林組合様とのコラボ企画

経営学部沼田ゼミの学生が、11 月 5（土）、6（日）に開催される東北町生き活き産業文化まつりに向けたイベント企画を東北町森林組合様にプレゼンしました。「森の恵み」を活かし、ご来場いただいた皆様に楽しんでいただけるイベントにしたいと考えております。

青森市新町で「まちなか展覧・発表会」開催

11 月 23 日午後、社会学部の社会福祉学コース・田中ゼミが中心となり、青森市新町 2 丁目の「新町キューブ」で、「まちなか展覧・発表会」を開催しました。学外の来場者を含む約 40 人が、地域活動に関するプレゼンテーションや、福祉に関する展示・疑似体験に参加しました。

この催しは、青森市の「まちなかフィールドスタディ支援事業」の助成を受け、中心市街地活性化を一環として実施しました。

会場には、認知症の方々の文芸作品や介護用ベッド・機器、認知症に関する知識をまとめたポスターを展示したほか、青森市の産直イベント「あおもりマルシェ」の学生スタッフの活動報告、「道の駅な

みおか」でのインターンシップに基づく利用傾向分析、「大学生観光まちづくりコンテスト 2016・青森ステージ」に入賞した経営学部チームのプレゼン資料なども掲示し、来場者の方々が興味深そうに見入っておられました。

プレゼンテーションでは、社会学コース・櫛引ゼミの学生たちが、「道の駅いまべつ」の利活用策の分析と提言や、地元民放のビジネスモデルに関する研究について報告し、活発な質疑と討論を繰り広げました。

学習支援センター

学習支援センターでは、今年度、各センター員が分担して次の４事業に取り組んでいます。(b)以外の事業は、学内の他のセンター・委員会との連携を図りながら活動を進めることとしています。

(h) 学習相談窓口の設置、学生支援の実態調査と今後の体制検討
(i) IRの推進
(j) 学内他組織との連携
　① 地域活動（制度整備、学生参画の推進）
　② 資格取得支援
　③ 就職・進学支援
　④ 留学生支援、国際化の推進
　⑤ ITによる授業支援
　⑥ 図書館などの利活用推進
(k) ミニセミナーの実施

［学習相談窓口の開設］

学習相談窓口を、学生委員会で実施している「学生カウンセリング」とセンター員窓口の２通りの方法で、５月末以降の授業期間におおよそ週に一度の頻度で実施しています。月ごとの開設回数は、以下のようになっています。

月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月
開設回数	３回	５回	５回	１回	２回	５回	６回	４回

この中で、学生カウンセリングを利用した学生は１１名（述べ人数）、センター員窓口を利用した学生は３名でした。

昨年度より学習相談窓口（センター員窓口）を利用する学生が少ない状況が続いています。理由の一つとして窓口を開設できる回数が少ないことも考えられますが、学生支援の観点から窓口開設の需要や必要性を把握して今後の体制を検討すべく、教職員向けの実態調査を行う予定です。

［学修時間・学修行動調査の実施（IR推進室）］

９月に、平成２８年度前期の調査を実施し、回答の集計・分析作業を行っています。また、平成２８年度後期に関しては、平成２９年１月に調査を実施する計画を進めています。

［幸畑団地の皆さん向けの「スマホ教室」開催］

１２月７日に、「キャリア特別実習Ｉ」・「地域貢献プランニング」の一環として、幸畑団地の皆さん向けの「スマホ教室」を開催しました。この取組みは、「地域貢献センター」と「学習支援センター」が主催し、「幸畑団地地区まちづくり協議会」が共催となって実施したものです。この中では、学生達による「幸畑団地の皆さんにお勧めしたいアプリ」のコンテストと、幸畑団地の皆さんとのスマホの使い方を中心とした交流が行われました。

［ITによる授業支援］

平成２６年度より学内向けに運用を開始した学習管理システムMoodleの利用を、今年度も継続しています。また、今年度より全学生向けにサービスを提供したマイクロソフト社Office365に付属の「OneNote Class Notebook」を用いた、資料配布や課題の提示・提出の試行も進められています。

青森大学オープンカレッジ

平成２８年度は、４月１５日から１２月２日の期間に別表のように２０回の市民大学講座を開講した。毎回４０名前後の受講生が参加し、参加者は熱心に聴講をしていました。そのうち7月２２日と１０月２１日の２回は野外実習としてそれぞれ北上市と鰺ヶ沢市を訪れ、名勝、名刹の散策を満喫しています。講座終了直後に、以下の本学 Web ページに各回の講座の内容とスナップ写真を掲載しています。
http://www.aomori-u.ac.jp/open_college/

また、例年同様平成２９年１月 24 日から３月７日にかけて７回にわたりスキー教室を開催します。会場はモヤヒルズ、大鰐温泉スキー場、安比高原スキー場を使い、初級、中級、上級の各クラスに分かれ、それぞれ専門のインストラクターに指導をしていただくことになっており、今年度は 27 名の受講生が参加予定です。

平成２８年度　青森大学オープンカレッジ 市民大学講座　実施表

日	程	テーマ	講　師	会場	備　考
1	4月15日(金)	開 講 式		青大送迎あり	開講式 オリエンテーション 青森大学622教室
		終戦直後の民主主義教育	前青森大学経営学部教授 平井 卓		
2	5月13日(金)	人工知能の考え方 ー最近の話題を巡って	青森大学オープンカレッジ所長・教授 堀端 孝俊	アウガ5階研修室	
3	5月20日(金)	心の健康 ～ストレスとコミュニケーション	青森大学オープンカレッジ副所長・教授 船木 昭夫	アウガ5階研修室	
4	6月3日(金)	日本の天妃（てんぴ）と台湾の媽祖（まそ）との関係	青森大学オープンカレッジ副所長・教授 江川 静英	アウガ5階研修室	
5	6月10日(金)	NHK連続テレビ小説「あさが来た」のモデル「九転十起の女性実業家広岡浅子と幕末の豪商たちの奇跡」	青森大学経営学部長・教授 森 宏之	アウガ5階研修室	クラス委員による茶話会
6	6月24日(金)	効果的コミュニケーションと傾聴へのすすめ	青森大学経営学部准教授 石塚 ゆかり	アウガ5階研修室	
7	7月8日(金)	ねぶたの起源と歴史	元青森県郷土館学芸課長・青森ねぶた祭審査委員長 成田 敏	アウガ5階研修室	
8	7月15日(金)	世界から注目される田んぼアートと村づくり（講話とトーク）	田舎館村長 鈴木 孝雄	アウガ5階研修室	
9	7月22日(金)	野外学習～岩手県北上市みちのく民俗村・サトウハチロー記念館を訪ねて	サトウハチロー記念館 館長 佐藤 四郎	野外学習	参加希望者は、バス代2千円の負担あり。昼食各自
10	8月26日(金)	中高年の健康体操	青森大学名誉教授 雨森 輝昌	青大送迎あり	青森大学第2体育館
11	9月2日(金)	いきいきとした脳をたもつために	青森大学薬学部教授 大上 哲也	アウガ5階研修室	
12	9月16日(金)	「青天の霹靂」の育種に携わって	青森県産業技術センター藤坂稲作部長 須藤 充	アウガ5階研修室	クラス委員による茶話会
13	9月23日(金)	私の履歴書～人生を楽しく生きる	前青森市男女共同参画プラザ「ウダール」館長 白井 壽美枝	アウガ5階研修室	
14	10月14日(金)	ルーマニアと青森～国際結婚	青森大学経営学部非常勤講師 アポスト・ミハイ	アウガ5階研修室	
15	10月21日(金)	野外学習～鰺ヶ沢と北前船の歴史・文化遺産	鰺ヶ沢町教育委員会学芸員 中田 書矢	野外学習	参加希望者は、バス代2千円の負担あり。昼食各自
16	10月28日(金)	叙情歌を楽しむ	青森大学ソフトウェア情報学部准教授 白岩 貢	青大送迎あり	青森大学 記念ホール
17	11月4日(金)	青森の青空の下で "等修、沢教"と戯れた6年間	青森高校同級生 小林 孝雄	アウガ5階研修室	
18	11月18日(金)	私が出会った素敵な人達	RAB青森放送アナウンサー 秋山 博子	アウガ5階研修室	
19	11月25日(金)	三内丸山～土偶と集落（世界遺産登録へ向けて）	青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室 室長 岡田康博	アウガ5階研修室	
20	12月2日(金)	「日本の文化の特性について−連続性と受容−」	青森大学学長 嶋谷 康文	青大送迎あり	青森大学622教室 修了式
		修了式			

○開 講 時 間	○青大までの送迎について
①アウガ会場　午前10時～11時40分 ②青大会場　午前10時10分～11時50分	青森駅裏（旧サンフレンドビル前）9:25発～県庁（八甲通り横）9:30～青銀本店前9:35～松原NTT横9:38～みち銀桜川支店前9:40青森高校前9:45～筒井経由で青大（幸畑）へ

経　営　学　部

【著書、論文、研究ノート、評論・書評、翻訳、寄稿、調査報告書など】　平成 28 年 7 月～12 月

井上　隆

12 月 15 日　監修『青森空港有料道路のあり方についての提言』青森空港有料道路経営改善検討委員会刊

櫛田　豊

10 月　『サービス商品論』桜井書店

沼田　郷

7 月　「北東北地域における光学機器産業の発展と課題」

青森大学学術研究会『研究紀要』第39巻　第1号

堀籠　崇

11月　「医療法人ガバナンスの展開とその問題―第5次医療法改正から第7次医療法改正へ」青森大学『研究紀要』第39巻第2号

【学会報告、学会活動など】 平成28年7月～12月

岩淵　護

7月　地域経営学会第14回研究会（青森・むつ市於）において「参与考察にもとづくフィールドワークから導かれる三つの視点－情報整理・解決手法の再発見、実施と計画のためのフレームワーク」を報告

8月　第8回マクロ政策分析研究会（青森大学於）において「取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究」を報告

10月　第16回地域経営学会研究会（青森公立大学於）「クラスターネットワーク形成と地域活性化 －山口県萩市の取り組みとビジネスシステムの構築」を報告

堀籠　崇

7月2日　単独「村山経営学からの学び―地域創生に向けて―」国際経営文化学会研修会，ホテル三日月竜宮城（千葉）

12月17日　単独「オープンデータ化の意義と社会的価値創造に関する試論―現代企業における情報システム化の変遷と企業戦略」国際経営文化学会第21回大会，千葉大学

【経営学部プロジェクト演習の取り組み】

平成26年度よりパイロット的にスタートしたプロジェクト演習も、本年度で3年目を迎え、飛躍の年となりました。履修学生の増加に応じて、これまでの「プロジェクト演習」の取り組みを一部見直し、担当教員の役割分担を明確化するとともに、評価方法、グループワークの進め方を改善しました。

なお、今年度挑戦したプロジェクトは3つであり、そのいずれも県外他大学を凌駕する成果をあげています。第一に「大学生観光まちづくりコンテスト2016」において、「Aomori 美 inbound Plan～日本の美を知る四季の旅～」（担当教員：松本）をテーマにした発表を行い、青森県観光連盟賞を受賞しました。第二に「パテント活用学生人財育成事業：大学生によるビジネスアイデアコンテスト」において、「光るキーホルダー」（担当教員：堀籠・中村）のビジネスプランを提案し、最優秀賞を受賞しています。第三に「学生発未来を変える挑戦プロジェクト」に応募し、「体験型観光イベントを通じた児童の健康改善の可能性」（担当教員：堀籠）が採択されました。

観光まちづくりコンテスト 2016

大学生によるビジネスアイデアコンテスト

学生発未来を変える挑戦プロジェクトフィールドワーク

（堀籠崇　准教授）

【台湾からの短期留学生の受け入れ】

平成 26 年度に開始した、台湾からの短期留学生の受入れが 3 年目を迎え、今年度は 2 名の留学生が来日しました。あわせて本プロジェクトの初年度に短期留学で在籍した留学生 3 名が今年度後期より編入学するなど、海外からの学生受入れが着実に軌道に乗り始めています。短期留学生のみならず、国内日本語学校からの入学生も増加しており、本学における国際交流の輪も広がりつつあるなかで、今後は経営学部のみならず全学的な留学生情報の共有を密にしていくことが求められています。

（堀籠崇　准教授）

【経営学部教務委員会の取り組み】

ここ数年の学生数の増加に伴い、これまで以上の教職員間の学生情報共有、密な連携指導体制の構築が求められている。また、座学の授業においては履修学生の増加に伴い、より一層のきめ細やかな学生ケアの必要性も出始めています。

このような状況を受け、今年度経営学部教務委員会では、学生の科目履修状況・出席状況（あわせて、不正出席の確認）チェックを行い、事務局と連携した学生への注意喚起、教務委員との面談、ゼミナールを通じた指導を行いました。今後生活指導の観点からも学生を注意深く見守っていく必要があり、学生委員会をはじめ他の委員会と連携しながら、教育・指導を進めていくことが課題となっています。

また、責任者である松本を中心として、簿記・会計プログラム、高大接続の取組みが少しずつ身を結び始めており、より一層の成果を目指し、次年度以降カリキュラムのブラッシュアップと教育環境

の整備を進めていきたいと思います。

（堀籠崇　准教授）

【第 68 回全日本学生新体操選手権大会】

8 月 24～27 日、岐阜市メモリアルセンターふれ愛ドームにおいて上記大会が開催されました。

団体競技において前人未到の 15 連覇を達成し、個人総合選手権においては、佐久本歩夢（経 2）が 7 位、永井直也（経 3）が 8 位に入賞しました。昨年個人総合 2 位の永井が最終種目で失敗があり悔しい思いをしましたが、種目別選手権ではスティック 2 位・リング 3 位とメダルを獲得しました。

（中田吉光　教授）

【第 69 回全日本新体操選手権大会】

11 月 24～27 日、国立代々木第一体育館において上記大会が開催されました。

ジュニア・高校・大学・社会人の上位 15 チームによる日本の頂点を決める団体競技において 3 年連続 12 回目の優勝を果たしました。個人総合選手権では、永井直也（経 3）が準優勝に輝き、種目別選手権においても 3 種目でメダル（2 位）を獲得しました。

（中田吉光　教授）

【第 20 回外国人日本語スピーチコンテスト】

11月19日、青森市国際交流ボランティア協会主催の「第20回外国人日本語スピーチコンテスト」が青森市中央市民センターで開催され、バヤラ・オテゴンチメゲ（経1）が、銀賞及び会場賞を受賞しました。

（赤坂道俊　教授）

【社会活動・地域貢献・講演など】　平成 28 年 7 月～12 月

赤坂 道俊

7 月 5 日　平成 28 年第 1 回度青森地方最低賃金審議会（会長）、於：青森合同庁舎 4 階会議室

7 月 26 日 平成 28 年第 1 回度青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

8 月 4 日　平成 28 年第 2 回度青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

8 月 23 日 平成 28 年第 3 回度青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

8 月 23 日「今年度最低賃金–初の 700 円台に」アップルワイド（インタビュー）NHK 総合。

8 月 24 日「本県最低賃金初の 700 円超」『東奥日報』朝刊。

8 月 24 日「最低賃金初の 716 円へ」『デイリー東北』朝刊。

9 月 8 日　平成 28 年第 4 回度青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

9 月 12 日 平成 28 年第 1 回度青森地方産業別最低賃金検討小委員会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

9 月 15 日 平成 28 年第 2 回度青森地方産業別最低賃金検討小委員会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

9 月 15 日 平成 28 年第 5 回度青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

9 月 29 日「〈すぐに会社整理を〉–アウガ支援条例案可決」『東奥日報』朝刊。

10 月 3 日 平成 28 年第青森県産業別最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

10 月 5 日 平成 28 年第青森県産業別最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室

10月6日 平成28年第青森県産業別最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎4階会議室
10月13日 平成28年第6回度青森地方最低賃金審議会、於：ラ・プラス青い森4階
10月27日「最低賃金とは」『朝日新聞』朝刊。
11月11日「〈今後どうなるか〉審議不十分の声-TPP衆院通過」『朝日新聞』朝刊。
12月7日「〈アウガ公共化について〉新庁舎は3階建て」ニュース・レーダー（インタビュー）
RAB青森放送。

※表彰

12月26日 平成28年度労働基準行政関係功労者厚生労働省労働基準局長表彰受賞、
於：青森合同庁舎4階会議室。

井上　隆

7月1日　「青森市まちなかフィールドスタディ支援事業補助金」推薦書、作成・送付、
青森市中心市街地活性化協議会事務局宛
7月7日　国交省青森運輸支局・厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境・
労働時間改善青森県協議会(第4回)、会長、青森県トラック協会研修センター
⇒関連記事：「農産物輸送で実証実験」『物流ニッポン』2016.7.14.
7月8日　中心市街地活性化に資するまちづくり会社のあり方・調査研究ワーキンググループ
検討会(第4回)、座長、青森商工会議所
7月15日　マスコミ対応．日本経済新聞社青森支局によるアウガ問題取材への応答
⇒関連記事：「青森駅前活性化の顔 破綻」『日本経済新聞』2016.7.25.
7月28日　中心市街地活性化に資するまちづくり会社のあり方・調査研究ワーキンググループ
検討会(第5回)、座長、青森商工会議所
8月17日　中心市街地活性化に資するまちづくり会社のあり方・調査研究ワーキンググループ
検討会(第6回)、座長、青森商工会議所
⇒関連記事：青森商工会議所『かけはし』(第201号・通巻第809号)p4.
9月30日　青森県県土整備部 青森空港有料道路経営改善検討委員会(第2回)、委員長、
新町キューブ3F
⇒関連記事：「青森空港有料道路、往復20%割引検討」『東奥日報』2016.10.1.
⇒関連記事：「青森空港有料道路無料化延期見通し」『朝日新聞』2016.10.13.
10月20日 模擬授業「まちづくりと地域再生」、青森県立青森中央高校、第7会議室
10月26日 青森県県土整備部 青森空港有料道路経営改善検討委員会(第3回)、委員長、
新町キューブ3F
⇒TVインタビュー：NHK青森あっぷるワイド、RABニュースレーダー他、
「青森空港有料道路料金徴収期間延長」について
⇒関連記事：「青森空港道路‘料金徴収10年延長’提言」『東奥日報』2016.10.27
10月26日　国交省青森運輸支局・厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境・
労働時間改善青森県協議会(第5回)、会長、ホテル青森3F
11月12日　青森商工会議所青年部30周年記念式典・祝賀会、
中心市街地活性化協議会副会長として来賓参加、青森国際ホテル

11月18日　青森市中心市街地活性化協議会・第2回運営委員会、副会長、青森商工会議所

11月25日　NPO法人ひろだいリサーチ、拡大理事会、青森大学633教室

12月2日　青森県県土整備部 青森空港有料道路経営改善検討委員会(第4回)、委員長、新町キューブ3F

⇒TVインタビュー：NHK青森あっぷるワイド、RAVニュースレーダーほか

「青森空港有料道路料金徴収期間延長」について

⇒関連記事：「青森空港道の徴収、下旬にも延長提言」『東奥日報』2016.12.3.

⇒関連記事：「青森空港有料道路 無料化延期へ提言集」『朝日新聞』2016.12.3.

12月21日　青森県知事宛、『青森空港有料道路のあり方についての提言』提出、県庁知事室

中田 吉光

7月2日　第9回青森県民スポーツ・レクリエーション祭オープニングセレモニーで部員とともにラジオ体操の説明及び模範演技を行う。

7月17日　ローズプリンセスバレエスクールの発表会がリンクモア平安閣市民ホールにおいて開催され、賛助出演を行った。(2016.7.17)

7月16～18日、7月29～8月7日、9月19～22日

昨年ねぶた祭りの開催期間にあわせ開催した「ぶる～nebuta」を今年は海の日・ねぶた期間・シルバーウィークとねぶたの家ワ・ラッセイベントホールにおいて3期行った。

青森の美しい春夏秋冬の情景と文化を映像と津軽弁で綴り、時に可憐に、そして猛々しくアクロバットなダンスを伝統楽器とともに体感していただいた。

7月19日　東北総合体育大会（新体操競技）が県立武道館で開催され審判長を務める。

7月30～8月2日　東北中学校総合体育大会新体操競技がマエダアリーナ（新青い森総合体育館）で開催され審判長を務める。

8月22日　フラッグハンドオーバーセレモニー（オリンピック引継式）に出演する。その放送後に、ＮＨＫが引き続きフラッグハンドオーバーセレモニー出演までの特集を番組で組み、観た感想をスタジオと生電話で対応した。

8月26日　ＴＢＳ「金スマ」で前回映像と併せ取り上げられる。

8月28日　「報道ステーションＳＵＮＤＡＹ」において特集が組まれる。

8月30日　日テレ朝の番組「スッキリ!!」において特集が組まれる。

9月11日　「東京2020ライブサイトin2016－リオから東京へ」岩手会場・ふれあいランド岩手においてトークショーに参加する。

9月14日　ＡＴＶニューワイドで特集が組まれる。

9月14日　ＮＨＫあっぷるワイドにおいて全日本インカレ15連覇及び大別内「元気あっぷる体操」の指導風景を取り上げていただく。

9月16日　「クローズアップ現代」で特集される。(2016.9.16)

10月2日　「ＢＬＵＥフェスティバル」を開催。一部に親子体操・介護予防体操を行い、二部ではTeamBLUE演技会を行った。総勢2,540名の動員を得た。

10月10日　第70回弘前市民体操祭・第9回弘前スポレク祭・トップアスリート招致支援事業・青森大学新体操部特別演技会を行った。

10月13～16日　全日本ジュニア新体操選手権大会が福島市で行われ、上級審判員として運営にあたった。

10月18日　青森市老人クラブ連合会50周年記念講演会「長寿たすけ愛講演会2016in青森」がホテル青森で行われ、「元気あっぷる体操ができるまで」の演題のもと講演を行い、その後学生たちと参加者によるレクチャー及びパフォーマンスを行った。

10月22～23日　平成28年度青森県中学校高等学校新体操選手権新人大会がマエダアリーナで行われ、審判長として運営を行った。

10月25日　平成28年度第2回青森市スポーツ推進審議会が市役所柳川庁舎で行われ出席した。

10月26日　日テレ「スッキリ!!」において2回目の特集が組まれる。

11月5日　青森県体操協会70周年記念式典に参列公演する。

11月13日　東京オリンピック2020組織委員会 大学連携プログラム 学生のための「RIO to Tokyo」のトークショーが上智大学で行われ学生2名含む3名で出演をした。

11月30日　日テレ「スッキリ!!」において3回目の特集（全日本選手権3年連続12回目の優勝）が組まれる。

12月1日　ＮＨＫ「シブ5時」において全日本優勝の特集が組まれる。

12月1日　デーリー東北から正月元旦向けの新聞取材を受ける。

12月3～4日　日本体操協会男子新体操一種審判員義務研修において講師として参加する。

12月10～11日　井原フェスティバル（岡山県）に招待を受け団体・個人の演技を披露する。

12月20日　全日本学生新体操選手権大会団体15連覇並びに全日本新体操選手権大会3年連続12回目の優勝報告のため知事表敬訪問を行う。

12月27～31日“Unive Gym Gala2016”（オランダ体操協会主催）に招待を受け演技披露を行う。

※「元気あっぷる体操」制作（2014.3～現在）

平均寿命が全国最下位の青森県。「脱！短命県」のキャンペーンとしてＮＨＫのテレビやラジオで流せる体操を作り、県内40市町村を廻りながら地域の人たちと触れ合う企画を作成。

9月11日　大別内町会婦人会

大別内市民館において「元気あっぷる体操」の指導を行う。

10月8日　社会福祉法人和晃会八甲園

八甲園1日限定ショップの開催にあたり、オープニングセレモニーで「元気あっぷる体操」の指導及び披露を行う。

10月18日　青森市老人クラブ連合会50周年記念講演会

「長寿たすけ愛講演会2016in青森」がホテル青森で行われ、学生たちと参加者によるレクチャー及びパフォーマンスを行った。

中村 和彦

9月　きょうめい展～写真展開催（於：アウガ2階）

9月　経営学部企業訪問　ミーティング（於：青森産業会館）

9月　経営学部企業訪問　ミーティング（於：青森総合卸センター）

9月　文部科学省・総務省・経済産業省後援「大学生観光まちづくりコンテスト2016 青森ステージ」（於：ねぶたの家　ワ・ラッセ　イベントホール）

9月　企業訪問（訪問先）葛西商店）
9月　「青森の夏祭りフォトコンテスト2016」「編集室特別賞」受賞
10月　経営学部企業訪問　ミーティング（於：青森商工会議所）
10月　経営学部企業訪問　ミーティング（於：青森はまなす会館）
10月　経営学部企業訪問　ミーティング（於：キャスティールート）
10月　経営学部企業訪問　ミーティング（於：丸石沼田商店）
10月　経営学部企業訪問　ミーティング（於：青森中小企業団体中央会）
10月　経営学部企業訪問　ミーティング（於：日専連ホールディングス）
10月　「冬・北国が生んだ風土をめぐる・津軽アート旅」
（青森県中南地域県民局地域連携部　発行）p.5掲載
10月　「陸奥新報」掲載（10月1日付）
10月　「津軽新報」掲載（10月20日付）
10月　「立佞武多祭　写真展」（於：立佞武多の館）
10月　「弘前公園　写真展」（於：弘前城菊と紅葉まつり弘前城公園内植物園）
10月　青函文化経済研究所同人情報誌『青函考路』Vol.9（2016 Autumn）　p.21 掲載

10月　「東奥日報」掲載（10月28日付）
10月　「CANON Image Gateway主催、「47都道府県の魅力新発見フォトコンテスト」
青森県の部フォトジェニック・スナップ部門優秀賞（最高賞）受賞
11月　「ちびっこ青い森巨木写真展2016」開催　（於；青森市アスパム２階）
11月　「Juni Juni 東奥小中学生新聞」掲載（11月1日付）
11月　「黒石よされ　写真展」（於：黒石りんごまつりスポカルイン黒石）
11月　「ちびっこ青い森巨木写真展ン2016」開催（於：函館市赤レンガ倉庫ベイギャラリー）
11月　経営学部企業訪問（訪問先：(株) キャスティルート）
11月　経営学部企業訪問（訪問先：(株) フクシスポーツ）
11月　経営学部企業訪問（訪問先：青森総合卸センター）
11月　経営学部企業訪問（訪問先：(株) 丸石沼田商店）

沼田　郷
7月12日　第2回 平内町×青森大学連携プロジェクト 実行委員会 於：平内町役場
7月12日　沼田ゼミナールにて工場見学＆インタビュー調査実施　北洋硝子様
7月21日　「途上国にワクチンを」プロジェクト　始動
ペットボトルキャップ　165kg回収　ポリオワクチン換算＝82人分に相当
7月22日　青森市フィールドスタディー助成金事業　夜店まつり（アンケート、誘客活動）
7月28日　第3回 平内町、青森大学連携プロジェクト 実行委員会 於：平内役場
9月15日　夜店通り商店街新聞 第9号発行
9月24日　青森大学夏季教職員研修会 報告「地域貢献推進の立場から」
9月27日　東北町森林組合 東北町生き活きまつりにおけるイベント企画のプレゼン
10月28日　青森市社会資本整備委員会（於：青森市役所）

11月1日　夜店通り商店街新聞 第10号発行
11月4～5日　東北町産業文化まつり 東北町森林組合との協働事業
11月8日　五所川原農林高等学校 大学見学会 模擬授業担当
11月12日　青森商工会議所青年部30周年記念祝賀会出席 於：青森国際ホテル
11月15日　平内町まるごとブランド戦略推進協議会 於：平内町青少年ホーム
12月20日　ぽかぽか森の恵み通信 発行（東北町森林組合への御礼）
※東奥日報　「ニュース力アップ」隔週連載中
7月初旬～中旬　青森市フィールドスタディー助成金事業 夜店まつりプロジェクト（ポスター、チラシ・配布活動）

堀籠　崇
8月8～9日　「マクロ政策分析研究会」開催（法政大学比較経済研究所と共催）＠青森大学
9月6日　学生引率「観光まちづくりコンテスト2016」＠ねぶたの家ワ・ラッセ
10月26日　学生引率・指導「パテント活用学生人財育成事業：大学生によるビジネスアイデアコンテスト青森大会」＠八戸プラザホテル
12月22日　学生引率・指導「学生発未来を変える挑戦フォーラム」＠弘前土手町コミュニティパーク

社　会　学　部

社会学科

平成２８年度は、社会学部の運営計画を策定し、学部全体の方向性を共有しながら、各教員が担当している分野を効率よくこなせるような努力をしてきました。社会学部のサイボウズを立ち上げ、教員間の連絡が効率的に行うためのプラットフォームとしましたが、このシステムを効率的に動かす方法を改善していく方法が必要であると思われます。多くの教員は、担当している講義などの他に多くの校務を抱えており、その仕事をこなすために多大な時間を割いているのが現状で、それらの仕事を行った上にサイボウズに書き込みをすることが二度手間になっている点が、システムが上手く作動しない原因の一つだと思われます。各先生方と相談しながら改善する努力をしていきたいと考えています。

学生募集活動は、学部の目標としていた70名を達成できる状況となっています。ここ数年で入学定員を満たしていない状況が続いていましたが、将来に向けて明るい方向性が見えてきました。しかし、社会学のカリキュラムに基づいて社会学・社会福祉学を勉強することを主軸として入学してくる学生の確保は、これからのセンター入試や本学独自の入試で入学してくる学生に多いことから、これからの入学生の確保は、重要な意味があります。学生確保に関しては、全学の学生募集計画などに基づき、全学と協働で展開している部分と、具体的に社会学部が動いている部分がありますが、これからの入試については、社会学部独自の学生募集や社会学部のカリキュラムの内容が影響してくることから、次の入試対策に関する改善点などを模索する意味でも重要性が高いと考えています。

社会学部には、地域貢献活動・全学のカリキュラム構築・留学生確保及び教育などの全学的な校務を担当している先生方が多くいることから、限られた時間で有効な学部運営を展開する必要がありますが、

その点についてはさらに改善が必要であると考えています。全体的には、社会学部の運営は教員の協力により改善していますが、一部の教員に負担がかかり過ぎないように注意しながら、社会学部の活性化が進むよう努力していきたいと考えています。

最後となりますが、社会学部の学生の活動は、多様な場面で活性化しており、就職に関しても質の高い就職ができてきています。これは、基礎スタンダードや社会学部のこれまでの教育の成果が上がってきている結果であり、将来に向けてこの良い傾向を継続できるよう各先生方と相談しながら学部運営を進めていきたいと思います。（澁谷泰秀）

[青森大学が青森県統計グラフ指導優良校に選ばれました]

3年連続で、青森県統計グラフ指導優良校として表彰されました。今年度の青森県統計グラフコンクールには、社会学演習Ⅰ（2年前期）を履修した学生の7チームが応募しました。そのうち3チームが入賞を果たし、例年通り、青森大学の学生の研究力量の高さを示すことできました。これらの7作品は、大学祭の社会学部の展示会場で発表されました。来場された地域の人々にも関心をもっていただき、和気あいあいとした質疑応答が行われました。（鈴木康弘）

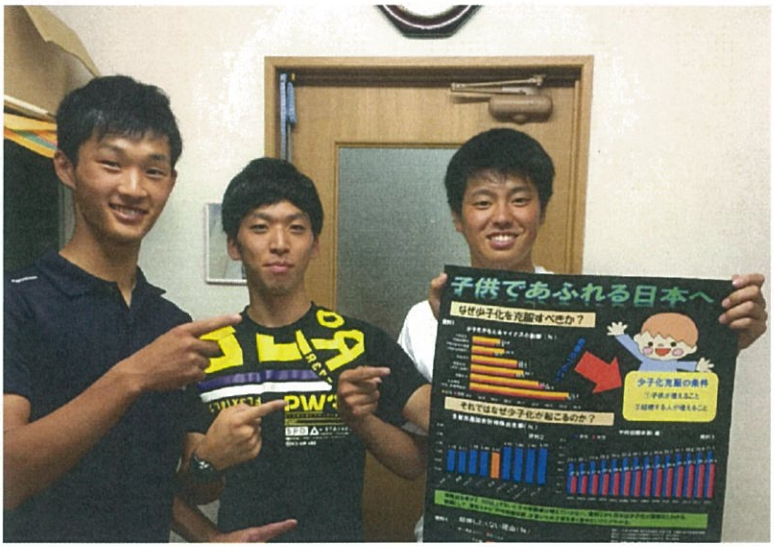
（大学祭での研究発表する留学生ソナム・ギャルモさん）

[佐藤雄大さん、青森県統計グラフコンクール　統計協会長賞受賞]

社会学部2年生の佐藤雄大さんが、「チョッと立ち止まって！！『自殺』を減らす対策を考えよう」という作品で、青森県統計協会長賞（パソコン部門）に選ばれました。佐藤君は自殺対策という大きな社会の課題を真正面からとらえて、4月から8月末まで統計グラフ制作に取り組み、何度も作り直して、メッセージ性のある作品に仕上げました。

（青森県統計大会で統計協会長賞をいただく佐藤雄大さん）

同じく社会学部２年の阿部祐弥さん、三浦哲聖さん、菊池健人さんの３人の作品「子供のあふれる日本へ」は入選（パソコン部門）を受賞しました。この作品では、少子化は暗い社会問題だけれど、私たち若い世代が安心して働き、子供を育てる環境を整えることが解決されなければならないことが示唆されています。



（左から菊池健人さん、阿部祐弥さん、三浦哲聖さん）

また、２年の小笠原歩夢さんの「若者のスピード離職を減らすには？」と題した作品が佳作（パソコン部門）を受賞しました。この作品は、大学生が身につけるべきだと考える能力と企業の求める「社会人力」が全く逆であることを示して、大学生が企業で働くことについて予め調べることが大切だと主張しています。（鈴木康弘）

［青森大学祭でブース出展］

10月1、2日の大学祭で、社会学部としてブースを出展し、学生による「道の駅なみおか」でのインターンシップ
体験や青森県統計グラフコンクールでの取り組みを紹介しました。

（社会学部ブースの様子）

[就活グループデスカッションを食堂で二回にわたって実施]

経営学部、社会学部及びソフトウエア情報学部の3年生対象の「就職活動実践演習B」の授業は外部講師により10月7日（金）と12月9日（金）の4・5時間目に連続して2回にわたって食堂にて実施されました。学生は1グループ8名程度で、司会・進行役、記録係、発表、タイムキーパー担当と役割が決められて、主張するときは、PREP 方式（最初に結論を述べ、次にその理由を言い、さらに具体例を述べて、最後にもう一度結論を述べるやり方）を使って、できる限り論理的な発言をするように指示があり、加えてグループデスカッションをする際にも丁寧な言葉使いをして、真剣に取り組むことなどが強調されました。

（グループでまとめたことを発表者がプレゼン。教職員は判定役。）

具体的なグループデスカッションでは、時間内で与えられた課題に各グループで取り組みましたが、最初は慣れないために発言できない学生もいましたが、少しずつ慣れている状態でした。外部講師からはもっと課題を多くやりたいのだけれどもといった声がありましたが、そばで見ている教職員は判定者として最後にグループ内の学生一人一人にコメントし、はては判定者が人事部の担当者に見立てて、採用したい学生を選ぶといった場面もありました。二回目の 12 月 9 日になると一回目よりは学生たちは慣れてきているようでしたが、それでもまだまだといった表情をしていました。大変忙しい中、ご協力いただいた先生方、有難うございました。

見た目重視の観点から 12 月 16 日（金）4 限の授業では、身だしなみのチェックを行いましたが、外部講師の今後のスケジュールとしては、2 月 7 日（火）、8 日（水）、2 月 27 日（月）と 3 月 13 日（月）の 3・4・5 限目に、徹底した入退室を練習する面接練習や自己分析などを行う予定です。いよいよ 3 年生（新 4 年生）の就活もいよいよ本番の佳境に入りつつあります。今後も教職員のご協力をよろしくお願いいたします。（佐藤豊）

[高大連携で青森中央高校の学習成果発表会に参加]

12 月 19 日（月）午後 1 時～3 時 20 分まで青森中央高校の体育館にて「青中央生徒学習成果発表会 2016」が開催され、本学からは社会学部の澁谷学部長、鈴木、佐藤、美濃、木原の 5 名が参加してきました。とくに今年度は 3 年生の総合学習の時間に統計グラフを導入してはどうかとの本学社会学部の提案が受け入れられて、鈴木先生の指導の下に中央高校の 3 年生の 8 グループが統計グラフの制作に参加、その結果、2 グループが青森県統計グラフコンクールにて知事賞などを受賞しました。今回の学習成果発表会では、全校生徒の前で 1 年生が 2 グループ、2 年生 2 グループ、3 年生が 12 発表でしたが、内容は多岐にわたっているとともに、地域活性化等の問題に各生徒が果敢にチャレンジして、テーマ設定の理由、仮設、検証、考察などを駆使して上手にまとめていました。最後の講評は本学の鈴木先生が講評して成果発表会は終了しました。（佐藤豊）

（青森中央高校の発表会のあとで講評する鈴木先生）

[青森山田高校推薦Ⅰ期合格者入学前研修会を開催]

12 月 3 日（土）10 時から 11 時 50 分に本学の 3 号館にて青森山田高校の推薦入試Ⅰ期合格者入学前研修会が開催されました。社会学部への合格者は 20 数名のうち、8 名の参加者でした。最初に全学部の合格者に対して崎谷学長より訓示があり、できるだけ春休みは読書をするようにといったお話があり、次いで学部ごとに分かれて研修を行い、社会学部では、4 年生で内定の取れた澁谷慮一君と 3 年生の大岩達也君（新体操）たちが合格者にエールを送りました。大学生の就職としては、佐藤ができるだけ最初の 2 年半の学生生活を実りのあるものにして、3 年後半からの就活に臨んでもらいたいと話し、船木先生からは SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)を使って自己紹介の練習をし、最後に学部長の話で研修会を終了しました。（佐藤豊）

[精神保健福祉援助現場実習報告]

平成 28 年度は 6 名の学生が実習を予定し、第 1 段階実習(5 日間、2 名は 3 日間)と夏季休業期間から後期中旬にかけて第 2 段階実習(24 日間と 2 名は 26 日間)を実施しました。5 名の学生は実習を終え、個別及びグループによる実習の振り返り、実習報告書の作成、実習報告会の準備と慌ただしい状況にあります。ただ、1 名の学生は家庭的事情から実習を中止しました。しかし、その学生の強い希望から、春休みには 14 日間の医療施設実習、来年度には 10 日間の行政機関での実習再開を予定しています。

平成 29 年度は 7 名の学生と今年度からの継続学生 1 名を加え、8 名の学生が実習予定です。なお、例年実施している予備実習（5 日間）は「ほのぼの寮」と「ハートフレンド」を予定しています。(藤林正雄)

[ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ]

平成 28 年度は 5 名（本来は 7 名のところ、2 名が諸事情で実習中止、4 年生 1 名、3 年生 4 名）の学生が、ソーシャルワーク実習Ⅰ（5 月 23 日（月）～5 月 27 日（金）合計 5 日間）、ソーシャルワーク実習Ⅱ（8 月 22 日（月）～9 月 16 日（金）合計 20 日間）合計 25 日間の実習を、5 か所の実習先で行い、

無事修了しました。

昨年度からの実習指導Ｉによる実習先についての基礎知識の習得や実習に臨むにあたっての心構え、綿密な実習計画の作成等、今年度の実習本番に向けての事前準備にはかなりの時間と労力をかけてきました。そして現場での実践的な体験を通して新たな知識を習得すべく、実習生達は孤軍奮闘してまいりました。

これらの成果を集約し、今年度後半は実習報告書の作成に入ることとなります。また、実習で経験した貴重な内容を発表する機会として、実習報告会を２月９日（木）に予定しております。（長内直人）

[国家試験対策委員会報告]

今年度の国家試験は平成29年１月28日（土）精神保健福祉士専門、29日（日）精神保健福祉士・社会福祉士共通、社会福祉士専門で実施される予定です。受験予定学生は、社会福祉士11名、精神保健福祉士３名、うちダブル受験２名です。

今年度は昨年同様、実習室を受験予定者へ開放し、各自若しくはグループで受験対策を行ってきました。また、５回（累計で15回）にわたって実施される学内模擬試験や、８月22日（月）～26日（金）に実施した「通い合宿・自主勉強会」、10月21日（金）・22日（土）の全国統一模擬試験などを実施いたしました。その他、受験予定者からの要望を受ける形で苦手科目の特別講座等も不定期に実施してきました。

また、現３年生の国家試験受験希望者を対象に、日本社会福祉士会模擬試験を受験させ、現段階での自己の学力を認識していただく一つのバロメータとしての材料提供を実施しました。

今後は国家試験受験日まで出来る限りサポートをし、合格者を増やしたいと考えております。合格発表は平成29年３月15日（水）の予定です。多くの学生が合格できるよう、最後まで指導していきます。（長内直人）

[大学祭で社会学部司書課程及び地域貢献演習Ｃクラスの学生が「ねぶた・ねぷた専門図書館」をオープン]

平成28年10月１日と２日の両日、青森大学の大学祭において、社会学部司書課程履修の２年生・３年生計13名及び地域貢献演習Ｃクラスの２年生29名（各学部合同）が、「ねぶた・ねぷた専門図書館」を実施しました。同図書館は、平成27年まで社会学部司書課程の主催でしたが、今年度は２年生の地域貢献演習の地域貢献活動の一環として、両団体の共催となりました。当日はねぶた・ねぷたに関する資料約340点を展示し（会場の都合で全ては展示できず）、地域の方々に閲覧していただきました。天候にも恵まれ、160名に及ぶ方々の来館がありました。同図書館を運営した学生のみなさんご苦労様でした。　(野崎剛)

[学術論文・著書] (五十音順)

櫛引 素夫「北信越地域における北陸新幹線開業１年後の変化と課題」、青森大学付属総合研究所紀要、第18巻第１号、2016年９月、pp.（掲載決定、ページ数未定）

中村和生・海老田大五朗 2016「保健医療の実践のエスノメソドロジー＆会話分析研究―録音・録画メディアの利用と臨床への介入的貢献―」『保健医療社会学会論集』第27巻１号51頁-61頁.

［ 学会発表など ］ (五十音順)

櫛引 素夫 「人口減少下の移住促進をめぐる地域課題の論点整理－青森県内のメディアの視点から－」、第 63 回東北社会学会大会、2016 年 7 月 31 日、青森市・アスパム.

櫛引 素夫 「北陸新幹線開業後の地域変化－長野・上越・高岡の現状と課題－」、日本地理学会・東北地理学会秋季学術大会、2016 年 9 月 30 日、東北大学.

櫛引 素夫 「地域政策形成へのステップ－メディア・留学生を中心に－」、科学研究費・基盤研究C・成果報告研究会「人口減少社会と外国人・移民政策 ～青森県を事例として～」2016 年 11 月 11 日、青森大学.

櫛引 素夫、沼田郷、坂井裕介 「地域貢献活動と連携した授業展開の実践試行ならびに学生への効果の検証」青森大学・教育研究プロジェクト成果中間報告会、2016 年 12 月 21 日、青森大学・集いのスペース.

［ 報告書・書評・寄稿など ］ (五十音順)

櫛引 素夫 ◇東洋経済オンライン（http://toyokeizai.net/）連載「新幹線は街をどう変えるのか」

「コンテナ店舗で挑む上越妙高駅前改革の勝算／北陸新幹線開業 2 年目、人口減へ新たな解？」、2016 年 08 月 25 日.

「北海道新幹線、利用者倍増で意外な落とし穴／『嬉しい誤算』だが地元には課題も浮上」、2016 年 10 月 05 日.

「開業 2 年目『北陸新幹線』、沿線駅の明と闇／駅前と市街地が競合する地域も」、2016 年 10 月 27 日.

「新幹線ルートのカギを握る『費用対効果』／北陸新幹線敦賀以西は『小浜・京都』に」、 2016 年 12 月 14 日.

◇その他

「参院選：大都市部 与党への異論鮮明」（朝日新聞・青森県版、2016 年 7 月 14 日）

「函館と北斗 連携強化を」（北海道新聞・インタビュー記事、2016 年 9 月 27 日）

※ほかに北海道新聞、新潟日報、朝日新聞・北海道版、週刊 SPA などにコメント掲載.

［ 論文査読 ］

佐藤 豊 日本比較文化学会「比較文化研究」に投稿される予定の論文 3 篇の査読を依頼され東北支部編集委員として 11 月末締め切りで行った。

［ 出張講義・講演など ］ (五十音順)

柏谷 至 「『答えのない問題』の答え方～災害対処ゲーム・クロスロードを体験しよう～」青森中央高等学校大学見学会 (1 年生対象), 2016 年 10 月 20 日.

パネルディスカッション「高校生の主権者教育の充実について」コーディネーター, 青森県教育委員会・青森県高等学校 PTA 連合会「平成 28 年度あおもり教育フォーラム・青森県高 P 連健全育成研修会」, アップルパレス青森, 2016 年 11 月 2 日.

櫛引　素夫　「まちづくりの視点から考える東北・北海道新幹線のゆくえ」、青森市・沖館市民センター講演（2016年7月14日、同センター）

「新幹線は地域をどう変えるのかー 東北・九州・北陸・北海道 ー」、松山商工会議所・産業振興委員会「函館・青森視察」講話（函館市・ロワジールホテル函館、2016年8月1日）

「鉄道とまちづくりー論点整理の試みー」、三陸防災社会研究会「今だからこそ未来へつながるまちづくり講演会」（2016年9月2日、大船渡市・カメリアホール）

青森県社会教育センター・ボランティア関係職員ネットワーク形成セミナー「地域課題克服のためのネットワークを広めよう！ー人口減少・高齢化への適応に向けてー」（10月19日・青森県総合社会教育センター、10月21日・八戸市視聴覚センター児童科学館、10月24日・弘前市中央公民館岩木館）

黒石市・未来塾「地域で高める防災力～災害時のリスクと心構え～」（2016年10月4日・浅瀬石公民館）

「新幹線ネットワークを考えるー北海道・東北・北陸・九州ー」、平成28年度公益社団法人青森県不動産鑑定士協会一般開放講演会（2016年10月14日、ワ・ラッセ）

日本商工会議所「地域振興と整備新幹線に関する勉強会」講師（2016年12月26日、同所）

［ 地域活動 ］（五十音順）

柏谷　　至　青森県生涯学習審議会（第13期）委員長就任（2016年8月～2018年8月）.

北東北小水力利用推進協議会 理事就任（2016年11月～2018年4月）.

青森県生涯学習課「平成28年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業」研究顧問就任（2016年11月～2017年3月）.

青森県エネルギー開発振興課「あおもり型スマートコミュニティモデルプラン検討ワーキンググループ」委員就任（2016年12月～2017年3月）

櫛引　素夫　特定非営利活動法人青森県防災士会理事

特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事

青森地方労働審議会委員

青森地方最低賃金審議会委員

青森地方労働紛争担当参与

「大学生観光まちづくりコンテスト 2016」青森ステージ運営委員

＊2016年9月8日、本選実施

青森県中山間地域対策協議会委員

人口減少社会対応型商店街構築事業・戦略策定委員会委員

青森市いじめ防止対策審議会会長　＊2016年9月～、詳細調査に従事

青森市・幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員

＊幸畑プロジェクトの一環として、9月から空き家・居住調査を実施中。また、12月7日には地域貢献センター、学習支援センターと協力して、団地住民を対象に、学生による「スマホ教室」を実施

青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会・副実行委員

青森KEN民塾世話人

※ＪＲ東日本「駅からハイキング・上股川渓流コース（今別町）」運営協力（2016年7月10日実施）

※「道の駅いまべつ」と青森大学の連携協定締結および調査研究事業（2015年6月～）

ソフトウェア情報学部

［学外実習］（角田 均）

10月5、6日にソフトウェア情報学部3年生が情報技術の最新動向を学び、自らのキャリアを意識するための重要科目である「学外実習」が実施されました。

学外実習では情報関連の展示会への参加を通して、①情報技術に関する最新動向（最新の技術、今後の発展の可能性など）、②情報技術を扱う企業や業界（業務内容、用語など）、③社会人としてのマナー、心構えなどを学ぶことを目的としています。今年度の学外実習は10月4日～7日に幕張メッセ(千葉)で開催のITとエレクトロニクスの総合展「CEATECジャパン2016」に参加しました。 CEATECは今年度、これまでの「家電見本市」的な色合いから「CPS/IoT展」に内容をシフト、「AI」「IoT」「センサ」「デバイス」などをキーワードに、より技術的な内容に特化した形で開催されました。

広大な会場で600社以上の展示や150のカンファレンス／セミナーが実施される展示会に、ソフトウェア情報学部3年生全員がグループに分かれて見学を実施しました。「人工知能」「VR」「センサ」「組み込み」「自動車」など、各グループがそれぞれ設定したテーマに沿って事前調査を実施、展示会での見学や出展者へのヒアリングを行い、レポートにまとめました。

[大学祭](和島 茂)

10月1日(土)、2日(日)の2日間にわたり、青森大学大学祭が実施されました。ソフトウェア情報学部からは研究室(角田、小久保、友田、矢萩、和島)やデジタルコンテンツサークルの学生の作品の紹介、堀端研究室での名刺づくり、緑川研究室から研究室の紹介とクイズの企画が出展されました。

[創作ゼミナール発表会](李 孝烈、坂井 雄介)

12月10日(土)9:00〜12:30に、5102教室において平成28年度の「創作ゼミナールⅡ」発表会が実施されました。「創作ゼミナールⅠ(3年前期)」と「創作ゼミナールⅡ(3年後期)」は、2年次終了時に配属された研究室において、学生が教員の指導のもとで主体的に研究テーマの設定、研究・開発、および成果発表と報告書作成を行う、本学部の主要科目の一つでもあります。また、この科目はソフトウェア情報学部が開設時より継続して実施しており、今回が11回目の発表会となりました。

今年度も、制作したソフトウェア、コンテンツ、および組込みシステムについて、電子情報通信学会研究会や国際会議で発表されたもの、高等学校など地域との連携を図るもの、および数学教育に関するものなど様々なテーマの発表やデモンストレーションが行われ、活発な質疑応答の様子が見られました。

[ソフトウェア情報学部卒業生が青森県ユビキタス出前授業で小学生に講演!](織田 将史)

7月8日(金)、板柳町立小阿弥小学校の体育館にて、青森県主催のITイベント「ユビキタス出前授業〜ユビキタス?君なら何する??〜」が開催され、青森大学ソフトウェア情報学部の卒業生・織田将史くんが、集まった小学生に熱いメッセージを送りました。

青森県は、「いつでもどこでもつながる」ユビキタス技術に関する取り組みを長年続けてきました。今回の「ユビキタス出前授業」には、青森県のIT企業ビジネスサービス、フォルテをはじめ、日本電気株式会社、富士通株式会社、シスコシステムズ合同会社 などの企業が出展し、最先端のユビキタスネットワーク技術を体験出来るブースが設けられました。また、コメンテーターとして大阪大学教授・下條真司氏、板 柳町長・成田誠氏、教育長・木村研二氏、青森県知事・三村申吾氏などが講評を務めていました。

主な参加者は板柳町立小阿弥小学校に通っている5・6年生の53名で、午後にその他の学年の小学生も楽しそうに企業ブースの見学をしていました。5・6年生はイベント開始直後に企業ブースを回った後、それらの技術を利用したアイデアワークを行い、皆で考えたアイデアを模造紙に描いて具体化し、最後にステージで発表を行いました。皆で楽しみながら、小学生ならではの、大人は思いつかないようなアイデアや、将来を見据えたアイデアもたくさん出ました。ブースを出展されていた企業の方も驚くような、そんな素晴らしいアイデアワークでした。

また、「先輩からのメッセージ」として、青森大学ソフトウェア情報学部を卒業し現在ヤフー株式会社勤務の織田将史くんが講演を行いました。織田くんは青森工業高校在学中に、青森県「あおもりユビキタス系養成事業」に参加しています。

講演は「ITの力を使ってみんなHappyになろう!」という題名で、自己紹介から始まりました。趣味などを語った後、「ヤフー株式会社における現在の仕事について」として、「インターネットの力を使って世の中の課題を解決する仕事をしています」と語りました。子供たちに「Yahoo!きっずを知っ

ている人〜！」と訊ね、挙手をさせる一幕もありました。青森大学ソフトウェア情報学部の紹介も交えながら、高校生や大学生時代の活動についても触れ、「考えるだけではダメ」、「失敗してもいいから120%の力」、「人生楽しい方がいいよね？」などと児童にメッセージを贈って締めくくりました。

[浪岡高校出張講義](新宅 伸啓、角田 均)

6月24日に、浪岡高校の1年生向けに、ソフトウェア情報学部で開発している発達障害児向けの生活支援アプリ開発の研究を紹介しました。

浪岡高校では生徒が将来の進路の選択肢を広げ、早い段階で高等教育機関への進学を意識、学修意欲を喚起することを目的に、様々な大学から教員を招いて1年生向けに模擬講義を実施する取り組みを行っています。今年度は青森大学から3名(経営学部、ソフトウェア情報学部、薬学部)の教員を派遣、ソフトウェア情報学部からは4年生の新宅伸啓と角田が参加しました。講義では大学での授業や研究の進め方、実際にソフトウェア情報学部で取り組んでいる研究テーマの紹介などに続いて、学生の新宅が卒業研究で取り組んでいます、クラウドとモバイルデバイスを活用した発達障害児向けの生活支援アプリ開発について、デモを交えながら説明を行いました。現在進行形で卒業研究に取り組む学生から、日々の研究の様子や苦労していること、能力の向上や達成感などに加え、高校時代に取り組むべきこと(取り組んでおいてよかった／取り組んでおけばよかったこと)などを伝え、生徒にも分かりやすい講義となりました。

[青森工業高校の生徒を対象としたセミナー](角田 均、小久保 温、和島 茂)

7月14(水)～15(木)に、青森工業高校の2年生6名を対象とし、入門者向けのグラフィカルプログラミング言語Scratchを用いたセミナーを行いました。ソフトウェア情報学部3年生の永田幸生が講師を、同3年生加藤秀斗、4年生の葛原尚人がサポートを担当しました。セミナーの最後に実施した自由制作では各自がオリジナルのゲームを作成して発表し、参加した生徒には大変好評でした。

[東奥学園の生徒を対象とした高校生セミナー](角田 均、小久保 温、和島 茂)

9月9(金)に、東奥学園の2年生28名を対象としたセミナーが実施されました。3年生の永田幸生が講師を、同3年生加藤秀斗、4年生の葛原尚人がサポートを担当し、入門者向けのグラフィカルプログラミング言語Scratchを用いたセミナーを行いました。基本的な操作方法から始め、セミナーの最終段階では、受講者はオリジナルのゲームなどを制作できるまでになりました。

[青森商業高校大学訪問](角田 均)

7月28日に、青森商業高校の1年生向けの大学訪問で、「人とコンピュータの共生する未来」をテーマに特別授業を実施しました。

青森商業高校1年生の商業科進学コースの生徒が近隣の大学を訪問、大学での教育と社会とのつながりを学ぶ目的で実施する大学訪問が7/28に青森大学と青森中央学院大学で実施されました。青森大学では経営、社会、ソフトの3学部の講師による特別授業を実施しました。

[黒石商業高校でアプリ開発の授業](小久保 温、齋藤 大輝、佐藤 孝之、坂井 雄介)

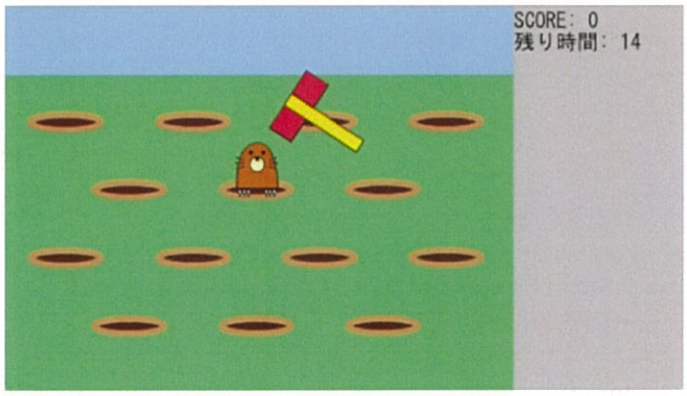
9月13日(火)から15日(木)までの3日間の午前中、青森大学ソフトウェア情報学部の小久保温准教授が、黒石商業高校情報処理科2年生を対象に特別授業「Javaアプリケーション開発」を行いました。また、ソフトウェア情報学部の学生(齋藤、佐藤)、教員(坂井)がサポートとして参加しました。

近年、青森県内の商業高校のプログラミング教育では、言語としてJavaを採用しています。Javaは、Androidスマートフォンのアプリや Webサービスを作るのに使われている、オブジェクト指向言語の一種です。今日、さまざまなアプリをうまく作るには、オブジェクト指向の理解が重要ですが、初心者には難しい場合があります。

今回の受講者は2年生で、これまでJavaの基礎を学んできました。そこで、今回の講座では、Javaをベースにデザイナーやアーティストのために作られたProcessingを用いて、ゲームを開発し、それを通じてオブジェクト指向に関する理解を深めてもらうことを目指しました。

授業では、Processingの文法と活用を説明し、オブジェクト指向を活用して「モグラたたき」のゲームを作りました。授業には、黒石商業高校出身でソフトウェア情報学部で学んでいる学生とその仲間たちも協力し、高校生のプログラミングをサポートしました。

高校生たちは、これまであまり触れたことのないプログラミングによるインタラクティブなビジュアル表現に興味を持ち、真剣に取り組んでいました。



[青森高校フィールドワーク](角田 均)

9月14日に、青森高校1年生のフィールドワーク(校外学習)でスマートフォンのソフト開発について、講義と実習を行いました。

青森高校の1年生が県内の専門機関や企業を訪問して様々な課題や諸問題について専門家や担当者からのレクチャーやヒアリングを行うフィールドワークの訪問先として、「スマートフォンのソフト開発について」を研究テーマとする3名の生徒をソフトウェア情報学で受け入れました。AndroidやiPhoneなどのスマートフォン向けのソフトウェア開発が実際の現場ではどのように行われているか、市場規模はどの程度か、最新技術の動向、青森県／青森大学で行われている開発人材の育成の取り組みなどの講義に加え、 実際にパソコンとタブレットを用いてAndroid端末向けのソフトウェアを開発する実習を行い、プログラミングが初めての生徒でも簡単にソフトウェアを開発できる開発環境を体験してもらいました。

[青森商業高校課題研究技術指導](橋本 武宗、山崎 駿、蝦名 寛希、小久保 温、角田 均)

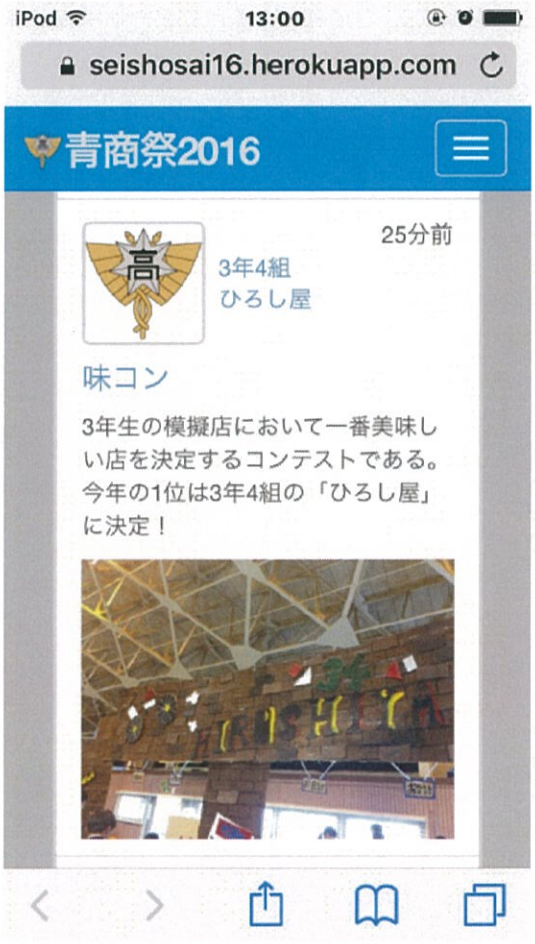
青森大学ソフトウェア情報学部の学生と青森商業高校情報処理科の生徒が課題研究で共同開発した青森商業高校文化祭(青商祭)情報発信アプリが公開され、10月29日(土)、30日(日)の青森商業高校の文化祭で実際に利用されました。

青森大学ソフトウェア情報学部から、教員(小久保、角田)と学生(橋本、山崎、蝦名)が、4月20日、5月11日、6月8日、7月6日、7月11日、9月7日、10月5日、10月20日に青森商業高校を訪問して、技術指導を行いました。

今回開発したアプリで、高校生が出展団体の情報をTwitterのように発信できます。また、イベントの情報も登録でき、現在行われているイベントや、今後のイベントの情報なども発信できます。

アプリを開発する上では、大学生と高校生が相談して、実施内容、アプリの機能、デザインなどを決めました。そして、大学生がプログラムを開発し、それを高校生が文化祭で使用します。

アプリの開発には、プログラムにはWebアプリケーション・フレームワークのRuby on Rails、ユーザー・インターフェイスにはPCにもスマートフォンにも対応したデザインを作ることができるBootstrapを使用しました。運用は高度なレンタル・サーバーであるクラウドPaaSのHerokuを利用しています。また、アップロードした画像などはクラウドのストレージ・サービスであるAmazon Web ServiceのS3に保存しています。



[青森山田高校情報処理科 2,3 年生に特別授業](橋本 恭能)

青森山田高校情報処理科の2年生(5月10日から10月25日まで計12回)、3年生(10月26日から12月14日まで計5回)を対象に、ロボットを使ったプログラミング授業を青森山田高等学校で行いました。本授業では、レゴマインドストームを使ったロボットカーの製作とコースを走行するためのプログラム開発、さらにグループワークでは、ロボットカーの自動ブレーキ機能の開発を実施しました。

[青森工業高校 工業クラブロボット製作部門 arduino 講習実施](橋本 恭能)

本学と連携協定を締結している青森工業高校の工業クラブロボット製作部門の生徒を対象に、arduinoマイコンを使ったロボットプログラミングの講習を昨年に引き続き2016年6月から開始しました。青森県高等学校ロボット競技大会が9月に開催されることから、それまでの間に計4回の講習を実施し、マイコンを使ったプログラムについて指導しました。

[青森山田高校技術指導](角田 均)

12/5に青森県総合社会教育センターで開催された青森県産業教育振興会東青地区協議会生徒研究発表会で、青森山田高校情報処理科3年生のチームが発表を行いました。

ソフトウェア情報学部の教員とサポート学生が青森山田高校に訪問、情報処理科の2、3年生向けに週2時間の授業を行う「特別授業」の中で、3年生向けの「プログラミングシリーズ」として実施した、スクラッチを用いたゲーム開発の応用として、青森県の観光地や名産品をゲームで紹介する「あおもりを紹介するミニゲーム集」を作成、東青地区の5校の研究発表で報告しました。プログラミングシリーズの特別授業終了後に、クラスの代表4名が発表資料を作成、発表練習などの指導を角田が行いました。「弘前城で桜の花びらをゲットするゲーム」や「横浜町の菜の花迷路」、「津軽海峡をフェリーで横断するゲーム」など、3年生のクラス全員を13チームに分けて開発した個性豊かな13種類のミニゲームをホームページにまとめ、インターネットを通して世界中の人に遊んでもらえるようにした取り組みを、動画によるデモを交えながら報告しました。

[青森工業高校課題研究技術指導](小久保 温、角田 均)

青森工業高校との高大連携の一環として、3年生の課題研究グループへの技術指導を行いました。

青森工業高校情報処理科で課題研究に取り組む3年生の6名を2グループに分け、マイクロソフト社のARデバイス「Kinect」を用いて児童の運動不足を解消するためのARゲームの開発に取り組むグループと、スマートフォンやタブレットなどのAndroid端末のGPS／ジャイロ機能を用いて商店街の店舗を案内するモバイルアプリの開発に取り組むグループのそれぞれに対して、定期的に高校を訪問しながら指導を行いました。ソフトウェアの企画からデザイン、設計、スケジュール設定など、開発に必要な事柄を順番に行い、実施状況をレビューしながら開発に取り組みました。また開発に必要なプログラミング技術の説明や、うまく動かないプログラムのデバッグ、修正など、実際に高校のコンピュータ演習室で放課後、時には夜遅くまで高校生と共同で作業を行った。開発したプログラムは高校の文化祭で展示、発表を行い、多くの来場者にゲームを楽しんでもらい、またモバイルアプリの説明を聞いてもらうことができました。さらにモバイルアプリは東北TECH道場の発表会(12/3)でも青森道場の成果として発表を行いました。

[障害児生活支援アプリ「ぐんぐん」の改良](新宅 伸啓、加藤 秀斗、小久保 温、角田 均、田中 志子、工藤 雅世)

昨年度、ソフトウェア情報学部の伊藤真也(4年生)と新宅伸啓(3年生)が共同で開発した発達障害児の生活支援システム「ぐんぐん」の研究を引き継ぎ、今年度は新宅と3年生の加藤秀斗を加えて、昨年度のシステムの改良に取り組んでいます。

「ぐんぐん」はタブレット端末による直感的な操作性と視覚的なわかりやすさを用いたアスペルガー症候群の児童の生活支援のためのアプリで、「経験値」や「レベル」などのゲーミフィケーションの要素を取り入れた新しいシステムとして、昨年度の研究では新聞各紙に大きく取り上げられています。

今年度の研究では、昨年度の研究・実証実験で明らかになった問題点や課題となった点を改善、支援施設の担当者が簡単な操作でそれぞれの児童に合わせた使い方を可能にし、さらにクラウドサービスを利用して情報を管理することで、児童の成長の様子を自宅の保護者とも共有できるようにしました。今年度の実証実験を、弘前市のNPO法人「光の岬福祉研究会」の協力のもと、光の岬こどもデイサービスセンターで12月1日より3カ月の予定で開始しています。

本研究は平成24年よりソフトウェア情報学部と社会学部が株式会社リンクステーションと共同で進めている、地域社会に向けたITサービスの開発プロジェクトの一環として実施、3月には日本情報処理学会全国大会で学生(加藤)が研究発表する予定です。また本研究は大川情報通信基金の助成研究として実施しています。

[東北TECH道場青森道場はじめました](紅林 亘、小久保 温、角田 均)

Googleにご協力いただき、スマートフォン・アプリの開発講座「東北TECH道場青森道場」を、青森大学と青森県が主催し、はじめて青森市で今夏開催しました。

東北TECH道場は、東日本大震災からの復興と発展を目指し、東北各地で開催されているスマートフォン(Android)のアプリの開発講座です。

青森道場は、講師にベテランのIT技術者・星孝哲氏((株)サマリー)を迎え、道場主を青森大学ソフトウェア情報学部助教・紅林亘、青森商業高校教諭・小田桐正巳、青森工業高校教諭・榊雄介がつとめま

した。今年は夏季と秋季の2クールを、青森駅前の新町プラザ フリーカフェ新町(まちまちプラザ)を会場に実施しました。

夏季は、7月10日、18日、23日、24日の短期集中で、道場入門者は高校生(青森商業高校、青森工業高校)・大学生(青森大学)の十数人でした。青森大学ソフトウェア情報学部の3年生の加藤秀斗、佐藤孝之がサポートしました。秋季は、10月10日、16日、11月13日、12月3日で、道場入門者は高校生(青森高校、青森北高校、青森西高校)、社会人(青森県産業技術センター)の十数人でした。夏季に参加した青森大学ソフトウェア情報学部の2年生の舘田真純、成田夕貴がサポートしました。

夏季の内容は、スマートフォンのアプリを開発しながら、ソフトウェア開発の真髄に迫るというものでした。具体的には、バージョン管理システムの活用、Androidアプリケーションのプログラムの特徴、くりかえし同じ処理を書かず変化に強いプログラムを書くコツ、変数を適切な範囲(スコープ)で使用するという大変ためになるものでした。秋季の内容は、バージョン管理システムの活用、Androidアプリの作り方、お絵描きアプリ、ピアノ・アプリでした。

12月3日には、各地の道場を結んで発表会を行い、夏季の参加者たちが成果を発表しました。青森商業高校の高校生が開発したねぶたがカラスを退治するシューティングゲーム「ねぶりん」はタブレット端末の傾きで操作するものでした。また、青森工業高校の高校生が開発中の「青森市観光アプリ」は、カメラからの画像に、タブレット端末の方向とGPSによる緯度経度を利用して、AR(拡張現実感)のアノテーション(注釈)を追加しようとしているという作品でした。

青森商業高校の「ねぶりん」は、青森大学主催で12月18日に開催した高校生科学研究コンテストで優秀賞を受賞しています。

[Art & Technology東北2016](角田 均、小久保 温、和島 茂)

7月2(土)に岩手大学において行われた、芸術科学会主催のArt & Technology東北2016にデジタルコンテンツサークルとして参加し、メンバーが企画・制作した2つの作品を出展しました。

[青森商業高校の高校生と青森大学の大学生が甘精堂本店を取材](橋本 武宗、山崎 駿、蝦名 寛希、小久保 温、角田 均)

平成28年7月6日(水)に、青森商業高校情報処理科の高校生8人が、青森大学ソフトウェア情報学部の橋本武宗くんたち大学生3人のサポートのもと、甘精堂本店を取材しました。

今年度の青森商業高校と青森大学の高大連携では、昨年度に引き続き、10月29日(土)、30日(日)に開催される青森商業高校の文化祭「青商祭」のWebを通じた情報発信に取り組みました。そのために、青森商業高校情報処理科の高校生は、青森大学ソフトウェア情報学部のサポートを受けながら、Web技術、記事の執筆、写真の加工などをこれまで学んできました。

今回、青森市中心商店街の新町にある老舗の和菓子店・甘精堂本店のご好意で、「紹介記事を書くに

は？」という観点で、高校生が店舗を取材させていただきました。取材では、甘精堂本店の歴史、商品のラインナップや特徴、販売、お客様などについてお聞きしました。そして、主力商品である昆布羊羹、カシス羊羹、若浪などを試食し、高校生たちはそのなめらかな舌触りとさっぱりした食感に感動していました。

[ソフトウェア情報学部の学生がシンガポールで講演！](澤田 洋二)

2016年9月7日(水)に、シンガポールで開催された「AWSUG-SG / JAWS Combined Meetup #1!」の夜の部で、青森大学ソフトウェア情報学部4年生の澤田洋二くん(青森山田高校出身)が、講演しました。

Amazonはインターネット通信販売の会社として知られていますが、高度なレンタル・サーバーであるクラウド・サービスの事業(AWS: Amazon Web Service)でも世界のトップ企業の一つです。このAmazonのクラウド・サービスのユーザー・グループにおける、シンガポールと日本の共同イベント「AWSUG-SG / JAWS Combined Meetup #1!」が今回はじめて開催され、100人以上の人たちが集まり大盛況となりました。

今回のイベントの夜の部で、青森大学ソフトウェア情報学部4年生の澤田洋二くんが、自分がAmazonのクラウド・サービスのユーザー・グループと関わって体験したことを英語で発表しました。

［水環境学会東北支部セミナー］（澤田 洋二、小久保 温、角田 均）

10月28日に、八戸ポータルミュージアムはっちで開催された平成28年度水環境学会東北支部セミナーでソフトウェア情報学部4年生の澤田洋二と教員の角田が研究発表を行いました。

「あおもりの水環境の現状と環境保全の取り組み」をテーマに開催されたセミナーで、県内の水環境保全の取り組みの一つとして、ソフトウェア情報学部と水環境学会東北支部が共同で進めている、水環境健全性指標のWebアプリによるマッピング／可視化の研究の進捗状況を報告しました。

標題「インターネット対応のweb型マップアプリを用いた児童・生徒による河川の水環境健全性指標調査について － 七戸川と馬駮川を例にして －」

発表では、青森環境管理事務所(元)の三上一氏による、県南地域の小学生による七戸川と馬駮川の健全性指標調査の成果報告に続いて、澤田洋二が3年次の創作ゼミナールで開発したアプリを用いて調査成果をGoogleマップ上に表示、可視化のデモを行い、現在卒業研究で開発中の機能強化版のアプリについて仕様や開発状況の説明を行いました。またアプリの仕様検討のために実施中のオンラインでのアンケート調査の状況や、研究プロジェクトの今後の予定、展望などについて角田が報告しました。

[青森県のハッカソンに学生が参加、教員・卒業生が入賞！](小久保 温、澤田 洋二、工藤誠也)

青森県主催のハッカソン「青森観光アプリ開発コンテスト」が、11月18日(金)-20日(日)に、ホテル「青森屋」(三沢市)で開催され、青森大学ソフトウェア情報学部の教員と学生、卒業生が参加しました。

青森県は、IT人材の育成に積極的に取り組み、アイデアソンやハッカソンなどのイベントを早くから開催してきました。「アイデアソン」は「アイデア」と「マラソン」、「ハッカソン」は「ハック」と「マラソン」を組み合わせた言葉で、それぞれ集中してアイデア出しをしたり、プログラムを制作するイベントです。

今回、青森県主催で、Amazonと星野リゾート「青森屋」が協力し、クックパッドの協賛のもと、ハッカソン「青森観光アプリ開発コンテスト」が開催されました。Amazonは、インターネット通信販売で有名ですが、高度なレンタル・サーバーであるクラウド・サービスの世界トップ企業の一つでもあります。森には、Amazonのクラウド・サービスの日本のユーザー・グループJAWS-UGの代表の立花拓也氏(株式会社ヘプタゴン)がおられ、今回のイベントに全面的に協力しています。

イベントは、2016年11月18日(金)-20日(日)に実施され、開発部門と企画部門が用意されました。また、これに先立ち、プレセミナー&アイデアソンが10月4日(火)に開催されています。本イベントおよびプレセミナー&アイデアソンには、青森大学ソフトウェア情報学部から教員、学生、卒業生が多数参加し、情報技術を活用し、青森を活性化するアイデアを考え、プログラムを開発しました。

今回、青森大学ソフトウェア情報学部は、以下の賞を受けました。

- [特別賞]チームめがね: 青森市のIT企業・株式会社ページワンに勤める卒業生が参加。位置を知らせるビーコンという機器とSNSを連携させて、ホテルの従業員や施設と宿泊客のエンゲージメントを高めるアプリ
- [企画賞]チームrecipecupid: 小久保温准教授。青森の郷土料理を通じた合コンを提供するサービスの提案

また、メディアに取り上げられました。

朝日新聞11月18日朝刊25面「観光アプリ開発南部曲屋で競う きょうから三沢で」

東奥日報11月19日朝刊5面「観光アプリで本県誘客 三沢 技術者らが開発コンテスト」

RAB青森放送11月18日(金)RABニュースレーダー

［ソフトウェア情報学部3年生が国際会議NOLTA2016で研究発表］（紅林　亘）

11月27日（日）～11月30日（水）に神奈川県湯河原町で開催された国際会議NOLTA2016で、ソフトウェア情報学部紅林研究室所属の3年生が、本学の「創作ゼミナール」で取り組んだ研究を英語で発表しました。

発表者: 川村 唯（ソフトウェア情報学部3年，紅林研究室）
発表タイトル: Koopman Operator Approach to Vital Sign Detection

この研究は、近年注目されているドップラーセンサーと呼ばれる新しいセンサー技術を考慮し、劣悪な環境下でも頑健にデータ処理が行えることを目指した基礎研究として位置付けられます。ドップラーセンサーは、患者に触れることなく、心拍や呼吸などのバイタルサインを検出することを可能にする新技術で、実用化を目指して研究が行われています。発表者の川村 唯さんは、本学の「創作ゼミナール」において、センサーの計測信号から心拍や呼吸などに相当するモードを抽出し、それらの頻度を推定するアルゴリズムの開発を進めてきました。川村さんは、動的モード分解と呼ばれる手法を応用することにより、信号分離と頻度の推定を行うアルゴリズムを開発し、今回、紅林研究室を含む研究グループを代表して研究発表を行いました。初めての研究発表にも関わらず、15分間の発表を落ち着いて英語で行い、海外から訪れた大物研究者も静かに耳を傾けていました。なお、この研究プロジェクトは、本学の紅林研究室と東京工業大学の中尾研究室が共同で進めており、JSPS科研費（若手研究B、 No. 16758957）の助成を受けています。

[ソフトウェア情報学部3年生が非線形問題研究会で研究発表](紅林 亘)

10月27日(木)～10月28日(金)に日立中央研究所で開催された電子情報通信学会非線形問題研究会で、ソフトウェア情報学部紅林研究室所属の3年生が、本学の「創作ゼミナール」で取り組んだ研究を発表しました。

発表者: 佐藤 孝之 (ソフトウェア情報学部3年, 紅林研究室)
発表タイトル: 一般化位相モデルに基づいた自励振動子のシステム同定

この研究は一般化位相モデル (紅林 他, Physical Review Letters, 2013) と呼ばれる数理モデルをベースとし、このモデルをさまざまな生体現象の予測や制御に応用するための応用研究として位置付けられます。発表者の佐藤 孝之君は、本学の「創作ゼミナール」において、このモデルに基づくデータ分析手法の開発に取り組んできました。佐藤君は、逐次ベイズ推定手法の一種である粒子フィルタという手法を応用することによって、データ分析のアルゴリズムを開発し、紅林研究室を含む研究グループを代表して今回の研究発表を行いました。この成果により、例えば脳の情報素子であるニューロンの振る舞いを、簡潔な数理モデルで表現することが可能となり、情報処理に関係する非自明な集団現象を予測・制御できる可能性が開かれることが期待されます。なお、この研究プロジェクトは、本学の紅林研究室と東京工業大学の中尾研究室が共同で進めており、JSPS科研費 (若手研究B、 No. 16758957) の助成を受けています。

[最新のセキュリティを学びました！](小久保 温、角田 均)

11月25日(金)、26日(土)、青森市で最新のセキュリティを学ぶイベントが開催され、青森大学ソフトウェア情報学部の教員が一般向けのパネルディスカッションに登壇、学生が専門の講座に参加しました。

若いセキュリティ人材の発掘と育成を目指す「セキュリティ・キャンプ」の地方版「セキュリティ・ミニキャンプ in 東北 2016（青森）」が、その実施協議会と青森県、情報処理推進機構の主催で、11月25日(金)に一般講座が青森駅前のアスパム、26日(土)に専門講座が今回共催の青森市のIT企業「ソフトアカデミーあおもり」で開催されました。

この様子は、東奥日報でも紹介されました。

東奥日報2016年11月27日朝刊3面「東北各地の学生が青森でネットリスク学ぶ」

一般講座では、情報処理推進機構の石田淳一氏からセキュリティの最新情報とその対策、青森県警の工藤靖之氏から青森県のサイバーセキュリティ対策の現状、弘前大学の長瀬智行准教授から暗号技術に関する講演がありました。

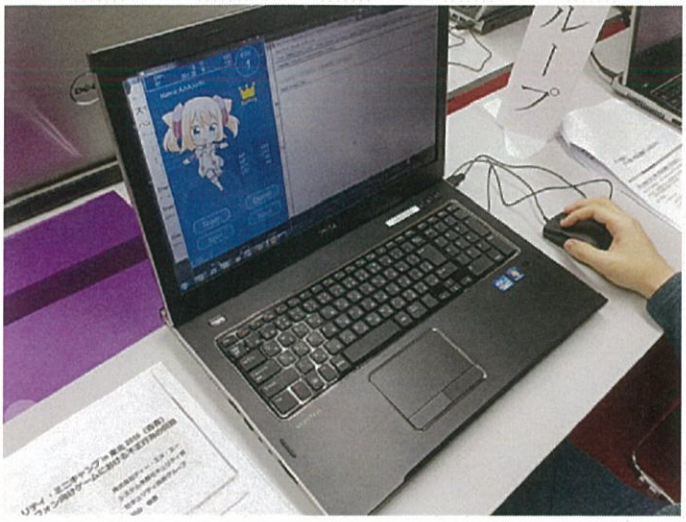
その後、パネルディスカッションには、講演者のほか、青森大学ソフトウェア情報学部の小久保温准教授も登壇し、アプリを開発する上でのセキュリティ課題と、それに対してどのような教育を行なっているかを紹介しました。

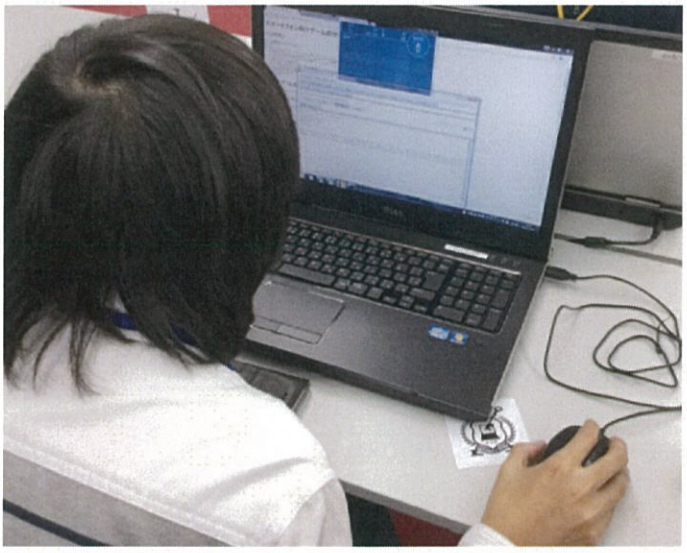
一般講座には、中学生、高校生、専門学校生、大学生、大学院生など、たくさんの若者が参加してセキュリティについて学び、盛んに質問も出て盛り上がりました。青森山田高校からも情報処理科の高校生が参加しています。

20人限定の専門講座には、青森大学ソフトウェア情報学部から3年生5人が参加し、スマートフォン・アプリのチート行為(セキュリティの穴を利用してズルをすること)、クラウドの最新事情について実践的に学びました。

スマートフォン・アプリのチート行為について、株式会社DeNAの杉山俊春氏から、スマートフォン・アプリを構成する技術の幅広さとそれに対する攻撃の多様性と対策の考え方に関する紹介がありました。その後、実習形式でアプリとサーバーの通信に途中で割り込みJSON形式のデータを書き換えてゲーム内通貨を増やしたり、勝負を有利に進める事例や、アプリのファイルを解析して悪用する事例を体験しました。

それから、株式会社WHEREの仲山昌宏氏から、高度なレンタル・サーバーであるクラウドの基礎、意義、最新事情などに関する大変わかりやすい紹介がありました。そして、実習形式でAWS(Amazon Web Service)でサーバーを作って立ち上げました。





[ET ロボコン 2016 東北地区大会に出場]（橋本 恭能）

平成 28 年 9 月 10 日(土)岩手県盛岡市のアイーナ（いわて県民情報交流センター）で、ET ロボコン 2016 東北地区大会が開催されました。東北各地の企業、大学、高専、高校など 24 チームが参加し、ロ

ボットの走行タイムやソフトウェアシステムの設計内容で競い合いました。

本学からソフトウェア情報学部橋本研究室とETロボコン研究会の合同チーム「青大ロボコン研P」(3年木立亮太、木村竜輝、2年對馬新）がデベロッパー部門プライマリークラスに出場しました。走行競技1走目は無事スタートしてゴールまで到達できましたが、2走目はスタートで転倒しリタイヤ、完走はできませんでした。しかし走行競技部門の健闘とモデル部門のソフトウェア設計を評価され、JASA（組込みシステム技術協会）東北支部賞を受賞いたしました。

［地域貢献演習（2年）第34回青森第九の会演奏会参加］（白岩 貢、宍戸 聡純）

今年度、初めて「青森第九の会」演奏会に合唱団員として経営9、社会4、ソフト10、薬9、合計32名の2年生がベートーヴェン作曲交響曲第9番「合唱」を演奏しました。今年で34回目を迎えた同演奏会ですが、市民の合唱団員も高齢化、マンネリ化により減少の一途をたどっていましたが、たくさんの若者が新たに仲間に加わってくれた、と大変歓迎されました。当日は約1400名の聴衆を迎え、履修者全員がステージにのぼり、ドイツ語での歌唱を見事にこなしました。地域貢献基礎演習での1年生履修者19名も鑑賞に訪れました。。青森大学の学生が毎年合唱団員として参加することを恒例として、青森の文化活動に参加する流れを作っていければ、と考えています。白岩は全体の合唱指揮とドイツ語指導、宍戸はテノールパートの合唱団員として参加しました。打ち上げには小野寺新青森市長も出席され、指揮者ともども合唱団員の若返りを喜んでくださった(12月11日青森市文化会館)。

［活動報告］

白岩 貢（演奏会出演等）

「七夕コンサート」青森市・認定こども園あすなろ幼稚園（2016.7.7）

「懐かしい曲のコンサート」神奈川県大和市・ロゼホームつきみ野（2016.7.9）

「地域ふれあいコンサート(助演)」青森市・あさひ保育園（2016.7.23）

「名曲コンサート」青森市・デーサービスゆとりあ（2016.9.19）

「ブラームスの世界を訪ねて」青森公立大学国際交流ハウス（2016.10.16）

「第25回暴力団追放・銃器薬物根絶青森県民大会～ミニコンサート」八戸市・八戸公会堂(2016.10.27)

「MUSIC PARTY～音楽玉手箱」埼玉県・吉川市おあしす（2016.11.5）

「青い森音楽祭2016〔ミュージカル転校生～水神役〕」青森市・青森市文化会館（2016.11.20）

［論文］

紅林 亘・白坂 将・中尾 裕也、「カーネル化された動的モード分解法のための最適なパラメータ決定法」、電子情報通信学会技術研究報告、116巻、86号、NLP2016-21、pp. 13-14、2016年6月

佐藤 孝之・白坂 将・中尾 裕也・紅林 亘、「一般化位相モデルに基づいた自励振動子のシステム同定」、電子情報通信学会技術研究報告、116巻、272号、NLP2016-83、pp. 103-106、2016年10月

Wataru Kurebayashi, Sho Shirasaka, and Hiroya Nakao, "Optimal Parameter Selection for Kernel Dynamic Mode Decomposition", Proceedings of 2016 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, to appear, 2016.

澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温、「肯定的項目と否定的項目の混在が尺度に及ぼす影響：項目反応理論による社会調査データの分析」、青森大学付属総合研究所紀要 第17巻第2号 pp.1-11、2016年3月

［学会・研究会発表］

澤田 洋二、小久保 温、角田 均他、「インターネット対応のweb型マップアプリを用いた児童・生徒による河川の水環境健全性指標調査について － 七戸川と馬駿川を例にして －」、平成28年度日本水環境学会東北支部セミナー、2016年10月28日、八戸ポータルミュージアムはっち

紅林 亘・白坂 将・中尾 裕也、「カーネル化された動的モード分解法のための最適なパラメータ決定法」、電子情報通信学会 非線形問題研究会、機械振興会館、2016年6月

佐藤 孝之・白坂 将・中尾 裕也・紅林 亘、「一般化位相モデルに基づいた自励振動子のシステム同定」、電子情報通信学会 非線形問題研究会、日立中央研究所、2016年10月

Wataru Kurebayashi, Sho Shirasaka, and Hiroya Nakao, "Optimal Parameter Selection for Kernel Dynamic Mode Decomposition", 2016 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, Yugawara, Kanagawa, Nov. 2016.

Yui Kawamura, Sho Shirasaka, Hiroya Nakao, and Wataru Kurebayashi, "Koopman Operator Approach to Vital Sign Detection", 2016 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications, Yugawara, Kanagawa, Nov. 2016.

［出張講座］

白岩 貢

「いきいき健康教室」（2016. 7. 17）

「芸術鑑賞教室・発声講習会」今別町立今別中学校（2016. 9. 7）

「いきいき健康教室」（2016. 9. 17&18）

「青森大学オープンカレッジ市民大学～叙情歌を楽しむ」（2016. 10. 28）

「ふるさとを英語で歌おう！出前講座」青森市立戸山中学校（2016. 12. 7）【白岩・アポスト】

「ふるさとを英語で歌おう！出前講座」青森市立荒川小学校（2016. 12. 12）【白岩・アポスト】

［委員等］

小久保温、青森県自治体情報セキュリティクラウド整備業務に係る選定委員会 委員長

小久保温、青森市情報公開・個人情報保護審査会 委員

白岩 貢、第 34 回青森第九の会・実行委員、合唱指導局長

薬　学　部

第 3 回青森大学オープンキャンパスの開催

ひらめき☆ときめきサイエンス
～ようこそ大学の研究室へ～
KAKENHI
JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会

9月10日（土）、第3回青森大学オープンキャンパスを開催いたしました。今回のオープンキャンパスは、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI 」として実施いたしました。参加された皆さんは、楽しそうに、興味深そうに実験を行っていました。薬剤師等への進路選択の一助になったかと思います。オープンキャンパスの最後には閉講式を行い、受講生には修了証書が授与されました。本学を卒業し、青森県で活躍中の薬剤師2名にご協力をいただきました。

また、本学薬学部の在学生（5年生3名、4年生8名）に手伝っていただきました。学生にとっては、大変だったかと思いますが良い経験になったかと思います。

平成28年度 中高生の薬剤師体験セミナーの開催

8月27日・28日に青森大学と青森県教育委員会の共催による「中高生の薬剤師体験セミナー」を開催しました。昨年に引き続き、4回目の開催です。より多くの参加者を受け入れるため、2日間の開催としています。県内の中学校・高等学校を通じて参加者を募集しました。1日目・2日目の中学生・高校生共に各30名で募集をしたところ、合計で200名以上の応募がありましたので若干名定員を増やし、1日目は中学生31名・高校生33名、2日目は中学生32名・高校生33名が薬剤師の仕事を体験しました。中学生は、薬を調製する[アズノール軟膏の調製]、薬をつなぐ[打錠・崩壊性試験]、昼食＆休憩＆青森県薬剤師との座談会、薬を視る[ペーパークロマトグラフィー]を行いました。　高校生は、薬を創る[アスピリンの合成]、薬を調製する[アズノール軟膏の調製]、青森県薬剤師との座談会を行いました。参加した中学生・高校生の皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。中学生、高校生ともに修了式を行いました。

そして、青森県の薬剤師６名にご協力をいただきました。また、本学薬学部の在学生（5 年生）８名に手伝っていただきました。

秋田県大館市の「中高生の薬剤師体験セミナー」開催

７月 30 日（土）、秋田県大館市と青森大学の共催による「中高生薬剤師体験セミナー」を開催しました。今年で３回目となります。大館市の中学校・高等学校を通じて参加者を募集したところ、中学生 10 名、高校生４名の参加者となりました。中学生は、経口補水液の調製、錠剤成型（打錠、崩壊性試験）、昼食、地域薬剤師とのトークタイム、ペーパークロマトグラフィーを行いました。薬剤師との懇談には大館の薬剤師５名に協力を頂き、活発な話し合いがもたれました。高校生は、アスピリンの合成、合成した薬の成分分析（薄層クロマトグラフィー）、昼食、経口補水液の調製、地域薬剤師との座談会を行いました。薬剤師との懇談には大館の薬剤師 5 名に協力を頂き、活発な話し合いがもたれました。 参加した皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。中学生、高校生ともに修了式を行いました。

そして、薬学部の学生８名（5 年生３名、4 年生５名）が協力しました。学生にとって、大変だったかと思いますが、良い経験になりました。

青森大学薬学部は青森県唯一の薬剤師養成機関ですが、秋田県には薬剤師養成機関がなく、青森県同様に薬剤師が不足しています。このような状況があり、県境を越えてのセミナーを実施しております

[青森大学-脳と健康科学研究センター開設準備]

12 月 21 日東奥日報に青森大学と医療法人雄心会間で、上記の研究センターを設置することが明らかにされた。今後、正式契約が締結された後、詳細な内容が決定されていくが、薬学部の研究および教育に対し、多大な貢献が期待される。

[報告論文]

・Masumi A*, Mochida K, Takizawa K, Mizukami T, Kuramitsu M, Tsuruhara M, Mori S, Shibayama K, Yamaguchi K, Hamaguchi I, Mycobacterium avium induces the resistance of the Interferon –g response at late stage. *Inflammation and Regeneration* 36:21(2016).

・Sato K, Okajima F, Miyashita K, Imamura S, Kobayashi J, Stanhope KL, Havel PJ, Machida T, Sumino H, Murakami M, Schaefer E, Nakajima K.: The majority of lipoprotein lipase in plasma is bound to remnant lipoproteins: A new definition of remnant lipoproteins. ***Clin Chim Acta.*** 461: 114-125 (2016)

・Parry DA, Smith CE, El-Sayed W, Poulter JA, Shore RC, Logan CV, Mogi C, Sato K, Okajima F, Harada A, Zhang H, Koruyucu M, Seymen F, Hu JC, Simmer JP, Ahmed M, Jafri H, Johnson CA, Inglehearn CF, Mighell AJ.:Mutations in the pH-Sensing G-protein-Coupled Receptor GPR68 Cause Amelogenesis Imperfecta. ***Am J Hum Genet.*** 99(4):984-990 (2016)

[学会報告、学会活動]

・**Nagakura Y.** New drug targets for the management of joint pain. 16th World Congress on Pain, Topical Workshop at IASP 2016, Yokohama, Japan, Sep 26-30, 2016.

本学会の様子については下記に示すようであった。

・**Nagakura Y.** The use of animal models to elucidate the pathophysiology of "dysfunctional pain", an unexplained and formidable pain category. The Science of Pain and its Management (The online conference hosted by EuroSciCon), London, UK, Dec 6-8, 2016.

世界疼痛学会(World Congress on Pain)は、疼痛分野における最大規模の学際組織である The International Association for the Study of Pain® (IASP)が 2 年毎に主催する、疼痛分野の世界的権威が集う国際学会です。今回 9 月 26 日～30 日の 5 日間、パシフィコ横浜にてアジア圏で初めて開催され、数千人の研究者等が参加しました。本学会において薬学部・薬物治療学研究室の永倉透記教授が招待演者として講演しました。発表要旨は以下のとおりです。

New drug targets for the management of joint pain The aim of this presentation is to indicate crucial perspectives in the development of new drugs for joint pain. One of the issues to be considered is methodology for assessment of joint pain in preclinical and clinical settings. Although many substances showed promising analgesic effects in animal models, few have achieved the expected pain relief in patients with joint pain. Thus, it

is crucial to lessen the gap of pain measures between animal models and patients. This presentation would suggest the preclinical methodologies which better reflect clinical joint pain. Another essential point in the drug discovery is the selection of right target molecule for right patients. Pathophysiology-based stratification of patients and identification of the target suited for each stratum would increase the success probability of clinical development for OA drugs. This presentation would overview candidates of drug target molecules for future OA treatment.

[社会活動・地域貢献など]

大上　哲也　　7月17日、9月18，19日、11月23日

青森市まちなかフィールドスタディ支援事業　　「いきいき脳健康教室」　　（於：新町プラザ）

8月20日

青森市教育委員会　４１３キャンペーン特別講座「子どもたちの街」

出張講義　　「薬局体験」　　（於　大野市民センター）

10月1，2日

子どもゆめ基金助成活動　中学・高校生対象セミナー　「ミクロの世界へ」　　（於　青森大学）

水野　憲一　10月27日
「薬の発見とその変遷　薬学部の魅力とは―なぜ薬学部で学ぶのか」
札幌啓成高等学校職業ガイダンス
11月16日
「医薬品の効くしくみ」戸山寿大学・大学院
戸山市民センター大会議室

金光　兵衛　10月

大越絵実加　12月13日
「医薬品以外の薬学分野」
青森市民センター

7/30(土)中高生の薬剤師体験セミナー（秋田県大館市共催）
8/27(土)-28(日)中高生の薬剤師体験セミナー（青森県教育委員会共催）
10/1(土)-2(日)大学祭内,10/22(日)まちまちプラザしんまちフリーカフェ
「KARADAすこやか診断」まちなかフィールドスタディ支援事業　団体：青大薬すこやか成分研究会
10/30(日)市民のための薬と健康フォーラムinとわだ「一人ひとりに向き合う医療-Towada紫-」
12/13(火)大野女性大学・大学院　大野市民センター「医薬品以外の薬学分野ー機能性食品：天然物由来の抗肥満改善素材」
9/10(土)青森大学オープンキャンパス同時開催
ひらめき☆ときめき サイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI（研究成果の社会還元・普及事業）平成２８年度　整理番号HT28043 機関番号31101　実施プログラム「薬を創る薬剤師」委託額(円)344,000

上田　條二　12月2日
「身近な民間薬」
青森市中央市民センター
三浦　裕也　9月15日
「先発品と後発品の上手な使い分けについて」
青森三菱会
11月29日
市民講座　「薬との上手な付き合い方を考える」
大野市民センター